5861
2144
no.23

LA SEMANTO

種蒔く人

行動と批判

第三年第五巻第二號

BERKELEY
LIBRARY
UNIVERSITY OF
CALIFORNIA

文藝批評
高尾君を弔ふ
農村
有島氏の追憶
獄を出て

□八月號□

種蒔き社

大正十二年七月二十八日（印刷納本）
大正十二年八月一日發行（毎月一日一回發行）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

NIA DEKLARO

Iam antaŭe homoj kreis diojn. Sed homoj nun estas ilin mortigintaj. La destino de l'kreitaĵoj estas facile divenebla.

Nuntempe ne sintrovas dioj. Tamen ĉie aliformigaĵoj de dioj estas plenaj. Dioj devas esti mortigataj. Kiuj ilin mortigas, estas ni; kaj kiuj ilin aprobas, estas la malamikoj. Du kampadejoj kontraŭstaras unu la alian. Dum ĉitiu stato daŭradas, homoj estas malamikoj de homoj. Neniam estas inter ili la vojo de kompromiso; tie nur estas „jes" aŭ „ne," „vero" aŭ „malvero."

Vero estas absoluta. Ni do diras pri la Vero, kiun aliuloj ne diras. Homoj estas lupoj kontraŭ homoj. Landoj aŭ rasoj estas en nenia rilato por ili. Sub la lumo de Vero okazas unuiĝo kaj apartiĝo.

[illegible] kune kun la kamaradoj el la tuta mondo!

La Semanto. (*TANEMAKIŜA*)

種蒔く人八月號目次

題言

農民の社會的立場……平林初之輔

お百姓にあいて(前田河)農民と小作組合(山川)農民藝術の考察(今野)公園で遭つた百姓(金子)議會と農業問題(海野)農村青年と語る(香里)農村と思想家(山田)

高尾平兵衛君を弔ふ

弔辭　高尾君のこと(M・K・T)スペインの出來事(ボードレル)

感想(青野)雜誌メモ(M・K・T)「地獄の出來事」(佐野)鎖(小牧)ある感想(山川)過去から(日乃樹)

有島氏の追憶　肖像、弔辭

追憶(今野、小牧、佐々木)

「三人の會」の報告(前田河)――「二ツの魂」(不知火)――

口世界欄――聾人欄――同人消息――

表紙、挿畫(斷頭臺の冬)……柳瀬正夢

―感想―獄を出て……中西伊之助

農村苦

地主階級の存立する限り、小作人階級は、どれ丈け働いても、樂にはならない。小作人階級が働き甲斐のあるやうにするには、地主階級は存在してはならない。併しながら地主階級が存在するのは、働く者を貧乏にし働かない者を金持にする資本主義制度の一部として存在するのである。此制度のつゞく限り農村苦もまたつゞくのである。

農村苦を根絶するには、資本主義制度、わけても地主、小作の制度を撤廢しなければならない。之れをするに當つて、地主や資本家階級の覺醒や努力に望みをかけても駄目なのは言ふ迄もない。資本主義制度を支持する今日の政府や政黨の力に依賴することもまた無駄である。玆に於て小作人階級の使命が明かになる。

社會は働く階級丈を必要とする。小作人階級は働く階級だ。自分達自らをよくすることに依つて同時に社會をよくすることの出來るのは働く階級の特權である。働く階級が自覺し發奮し健鬪する時には、働かない階級は必ず消滅すべき運命を有する。有害無益な階級が消滅して社會は進步するのである。

小作人階級の團結、全勞働階級の團結に一切が胎まれて居る。すべての働く者の團結からもろ〳〵の建設力は生ずるのである。

東167823

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

農民の社會的立場

平林初之輔

最近或る席上で、私の尊敬する或る人が、吾々は農民に感謝しなければならぬ、吾々の毎日食つて生きてゐる米は農民のつくつたものである、農民は吾々の恩人であるから、吾々は農民に感謝しなければならぬといふやうなことを言つたのを聞いて變な感じがしたのを私はおぼえてゐる。この人の言葉は別に珍らしい言葉ではなく、誰でも口にする言葉である。お寺の坊主でも、修身の先生でも、銀行の頭取でも平氣で口にしてゐる言葉である。從つて別だん意味のない言葉である。此の言葉から、詩人的センチメンタリズムと、道學者的衒學と、宗教家的僞善とを取り去るとあとに殘るのは明白な矛盾だけである。かつては、農民はかういふ甘い言葉にだまされて、自己の天職の尊さに感激し、その虐使に忍從した。かつては詩人や宗教家は、此の安價な辯疏を頭の中で繰り返すことによりて道義的滿足にしたることができた。

しかしながら、今では、吾々はそんな無意味な反覆をやめねばならぬ。農民が尊いのは吾々の生命につなぐに必要な米をつくるからか？若し彼が、米の代りに、葉卷の原料にする煙草をつくつたらその農民はどうか？更にその農民が

貧乏人の身體にはめつたにつかぬ絹織物の原料をつくるための養蠶をしたらどうか？　此等の農民は吾々の恩人である代りに吾々の敵になるか？

農民が米をつくつてくれるから恩人だといふやうな言葉が、如何に農民の耳に甘くひびくからと言つて、吾々はこのわかりきつた矛盾を平氣でくり返してをるわけにはゆかぬ。それと同時に農民が、吾々は米をつくるから人類の恩人だなど〻考へるのは愚の骨頂だ。それは化粧工場に働く職人や、砲兵工廠の職人が、奢侈や軍國主義の責任者でないと同じことだ。

農民が尊いのは米をつくるからでなくて勞働するからである。一寸考へると農民だけで米がつくれるやうであるけれども、よく考へて見ると、米をつくるには、農具や肥料や被服や、その他色々の工業生産物が必要である。これ等のものなしには農民は米をつくることはできぬ。して見れば、鍛冶屋も、木工も、肥料會社の職人も、紡績女工も米をつくることに貢献してゐるのである。即ち嚴密に言へば、米は農民がつくるのではなくて、凡ゆる勞働者の協力によつてつくられるのである。

それと同じやうに工業生産品は、一見工場勞働者だけでつくるやうだけれども、先づ彼等は食はねばならぬ。その食物は農民によつてつくられる。彼等の着る着物の原料の綿花は矢張り農民がつくるといふ風で、農民は工業製品の生産にも協力してゐるのである。そこで、農民が米をつくるから人類の恩人だといふやうな説は意味をなさぬことになる。マッチをつくる勞働者も電氣會社の職工も、めぐり〳〵つて米をつくることに協力してゐることになるのである。難かしい言葉で言ふとこれは生産が社會化されてゐることを示すのである。最も非工業的な、最も進歩のおくれてゐる農業生産さへも〻はや農民だけの力でつくることは不可能で、社會的に生産されてゐるといふことを示してゐるのである。

農民が尊いのは米をつくるからではなくて此の社會的生産に從つてゐるからである。言ひ換へれば勞働してゐるからである。都市勞働者と農民とは、たゞ分担を異にしてゐるだけで、何れも社會的生産に從事してゐるのであつて、その尊さは五分五分である。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ところが、この社會的勞働の生産物は、社會全體のものにもならねば、農民と勞働者とのものにもならず、却つて、社會的生産に無關係な地主と資本家との私有になつてゐるのである。單に土地と資本とをもつてゐるといふだけの理由で地主と資本家とは、社會的勞働の搾取を分担してゐるのである。こゝに重要な眞理がある。勞働者と農民とは協力して社會的生産に從事し、その生産品は地主と資本家に分割されて私有される。考へて見るとこの場合不合理な點、理屈に合はぬ點は地主と資本家とが横合ひから飛び出して來たことだけである。社會的に生産されたものが、社會的に所有されずに、地主と資本家に私有されるといふことだけが不合理なものである。そこでこの二つの邪魔さへ無くすればよいわけである。ところが地主と工業資本家が生産物を私有できるのは、土地と生産機關とが彼等の私有になつてゐるからである。故に地主と資本家を無くするには土地と生産機關とを社會化すればよいわけである。

土地と生産機關の社會化、これが都市勞働者と農民とを通ずる全無産階級運動の目標でなければならぬ。農民は「人類の恩人」といふやうな、空證文を受けとつて忍從することなく、苦い現實を直視し、都市勞働者と提携して地主と資本家に、生きた證文を要求しなければならぬ。（七月五日夜）

お百姓あひて

前田河廣一郎

ある肖像畫會社の地方廻りをしたことがあつた。もちろん、アメリカにゐた頃の話で。體のいいことを云へあ、勸誘員さ。が、打明けた話乞食と泥棒の混血兒ぐらゐのところだらうが。——人の惡るい商賣だ。

相對手は、お百姓。のんきはのんきさ。俺は日本人だつたので、かへつて、もてたものだ。といふのは、田舎の人間は、めつたに外國人だとか、動物園だとかを覗いたことがない。動物園のつもりで、日本人などを眺める。で、ひよつくり玄關へ訪れて、鈴を鳴らすと、お主婦

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さん、前垂で手を拭き拭き、隣りのサム爺、また用もねえのに長話でもしにやつて來たよ、今日はジャムを拵へてるから、忙しいつて斷つて置かうか、いや隣家の間柄さうも行くまい、ま、臺所へでも來て話しても貰はうかなどと考へて、扉をあける、や、ちがう、ちがう、妙な男だね、鼻が低くて、顏が黑ろく、あの髮のまつ黑なざまは、こりあ神樣の御ぼしめしでアダムとイーヴの間から生まれた人間のあととりたア別な人種だわい、よく何かしやべるよ、あツ、英語だ、新聞の説明みたいなことをならべてるよ、この男、何にしても妙だ。かう思つて好奇心から、ジャムのことなどを忘れてしまふ。このジャムを忘れさせるには、日本人はもつて來いの役だ。

　好奇心なら、理解が湧けば、感歎により稱讃になる。もちろん、さうとんとんとうまくは行かないが、まアお這入り、ぐらゐの處までは漕ぎつける。

　乞食と泥棒の混血兒が、何食はぬ顏をして、ぬーツと百姓家へ這入り込む、手には肖像畫のサムプルが、ぐるぐる卷にした、日本の掛物のやうにして、ちあんと用意してある。飯の種だね。それで、田舍の百姓家（アメリカの）を、まあどうやら觀察してるやうなわけだ。（この記事は下讀みにして置いて貰ひたい。他日僕が小説の材料にとて虎の子のやうに秘藏してゐたものだから、重復したとき、なに、奴、此前も『種蒔き』何年何月號で、同じことを書きあがつた、こりや原稿の二重書きだ、なんて云はぬことを、讀者に豫めお願ひする。）

『私は、何々何々の肖像畫會社を代表して御當地へ、わざわざ（このわざわざが必要だ）出張しましたもので、會社の調査部からの調査では、御宅には必らず御兩親の舊い御寫眞がある、（兩親がなくて生れる人間はないのだから）といふので、是非、それを御家庭の記念品として長らく保存して御置きになるやうに、これこの通り（この際ゼスチユウ宜しくあつて、大手を振り乍ら件の掛物樣の肖像畫のサムプルを展き示す體）立派な藝術品とされんことを望みます。これを金緣の額へでも嵌めて御覽じろ、立派なもんですぜ。美術品、崇高な藝術、併せて祖先尊敬、一家の平和、國際會議（まさか、そんなことは言はない）——どうです、これは、マダム（と云はれてる百姓、眼を細めて欣ぶワ欣ぶワ）たつた貴女、わづかに三弗半で、一週間內に、貴女の御宅のあの壁にちあんと、かう美々しく飾られるんですぜ。（と、乞食と泥棒

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の混血兒、あまりしやべり過ぎてもいかん。此へんでよく先方の意慾の動き方を、眼に口に鼻の皺に顎の角度に鋭どく觀察する。）いかがです？　御隣りのサム氏からの御注文も、これこの通り。それからもう一軒御隣りのジーケルさんの奥さんも、失はれた御娘さんの御寫眞を、これこの通り、ね。注文が忙しくて、體一つでやとても廻りきれぬ、とまア云ふ次第で。いかがです、一つどれでもよろしい、御秘藏の記念の御寫眞を、ほんものの畫家に探毫さしちや？たつた三弗半ですぜ。』

ざつとまア、こんな口調だ。

ところが、これほど、日本語ほど英語が雄辯には出て來ない。それが愛嬌。――だが、愛嬌だけぢや飯が食へぬ。何とかして主婦さんの、根づよい、田舍者の頑强さと、相撲をとらにあならぬ。まかりまちがへば、その場で夫婦喧嘩の仲裁もしてやらねばならぬ。時には、注文を貰つた上に、晝飯を馳走になる。づうづうしいこと夥しい。セピア、木炭、クレーヨン着色、水彩、油繪、寫眞引伸ばし――なんでもやる。各々値段がちがふ。値段の上下をうまく擦りかへたこともある。客の意屬を、こつちの説明一つで、いゝ、しんこ細工のやうに手で捏つちあげることもある。すべての商業の如く、充分に心理上の詐僞は働く。で、騙ましてやうやうのことで、注文を一つとると、三弗半なら五十仙のコムミッションが親方の手帖に控へられる。この親方は地廻りだ。地方の目ぼしい宿屋へ泊つてゐて、毎日賣子の取つて來る注文を會社へ報告する。その日〱の小使を渡す。あとは、トランプでも弄つて、酒場に葉巻を啣へてぶらぶらしてゐる奴だ田舍の百姓家の一軒々々を、よく調べた人間でないと出來ない。

事實、アメリカの百姓は、大地主と小作人に至るまで富の程度が、ぐつと高い。大概の農夫はフォード型の自動車の一臺ぐらゐは持つてゐる。日本では、フォードなどといふと、株屋の旦那が乘るものぐらゐにしか思はれてゐない。それを百姓が、日本で云へば普通ザラにある下百姓が――これだけ…………………早く來る原理だ。それだけアメリカ人は、政府とか富豪とか政治家とかの直接の壓迫を受けてゐない。

話は舞ひ戻どる。

『うらが亭主は、やかましやでね。めつたな物賣りなんぞから、物買つちなんねえ――て言ふだよ。だからは、裏

の畑へ行つて、よつくピータに話してくんろよ、御前さん。わしは、この昨年なくなつた總領の娘の寫眞を、なんとかして飾つて置きてえと思つてるだが。』

主婦さんセンチメンタルになつて、亡き愛娘の寫眞――鼻のツん出た、そばかすだらけな、御轉婆ものの――を出して見せる。

請合つた。で、ちよつとここの番地と御名前を、それから、その寫眞を見せて下さい。御亭主へ御話しするにも好都合。で、なんですかい、大きく畫かせるには、三弗半のにしますか、それとも六弗にして着色にしますか油繪とするとずんと値が張つて五十弗です。まア、六弗ぐらゐがいかが？ よろしい、六弗とね。額縁が一弗半もかかりませうが、綺麗な奴を。永遠の記念ですもの、養女の御孃さんが泣きますぜ、妙なものをつけると。よろしい。で、この紙片を御渡して置きますから、肖像畫を受取るとき御出しなさい。只今裏へ行つて御話します。へいさよなら。

裏へ出て見る。

どこに畑があり、ピータがどこにゐるか、一目蒼茫々とした麥畑で、何も見えあしない。まさか、商賣柄、大きい聲で、

『ピータッ！』

と呼ぶわけにも行かない。

畑のくろをぐる〲廻つて見る。雲雀が鳴いてゐあがる。林檎の花がちらほら節くれた枝に咲いてゐる。蜂の唸りが――そんなことを一々感傷的に數えたとて日には夕方になつてしまわ。

ゐる、ゐる。きらつと犁が光る、馬が鬣をふつて、進行的に前脚をあがいてゐる。小さな馭者臺に乘つて、何かわめいてゐるのが、豆粒のやうに遠いが、ありあ、ピータにちがひない。ちがひなし、と思ふと一さんに驅ける。これが大農式の小作人だ。土地柄、國柄、農も荒らい。

『ピータさん、實はこれこれしかじかで、今奥さんから御注文を戴きましたが、貴君も決して異議を申されんでせうかな。御孃さん、あの失くなられた最愛の御孃さんの爲めに、是非この美しい奥さんの(何が美しい)御心掛けを、御賛成下さい。さよならッ！』

ピータが、馬をとめて、玉蜀黍ので拵へたパイプに、シヤツグと稱せられる刻煙等をつめかへて、妙な奴が舞

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ひ込んだもんだ。やつぱし儂らの國語をしやべくつてるぞ、洗濯屋の注文の支那公かな、はて變な奴だ、何でもまア一腹、と思つてるうちに、一目散に驅け出してしまふ。

『昨年はピヤノを買つてやつたのに、あの阿魔、また、何かへんな物を買ひ込みあがつたな。女ごちうもんは、とかく物を買ふことが好きでたまらねえもんと見える哩。ま、よし、よし、麥さへよければ、今年は俺も都へ出て一と飲み飲んでやるつもりだ。ゲツタツプ、畜生ツ、ゲツタツプ、フランク！』

馬は再び畝に添ふて、小さな犁のついた車を輕々と曳いて行く。土は、めりめりと剝がされるやうに、林檎の皮をでもむくやうに、地殼から掘り起される。雲雀が鳴く。淋しいが、眺めはいい。結句、百姓ものんきなもんさ。——と、内心、彼は唸いて、一日野良で暮らす。主婦さんは、忘れてゐたジャムを、また大急ぎで罎へ詰める。

そして、乞食と泥棒の混血兒は、隣村でビールでもあほつてゐる。

日本の農民諸君！土地がなくなつたらアメリカへ無條件で移住したまへ。何にも、同じ神さまの拵へた土ぢやないか。その爲めに戰爭が起つたら、起こす役人が惡りいんだ。（了）

藝術戰線を讀め

明治大正にわたつての文藝運動が、最も明確に社會的浸潤を示したのは、プロレタリヤ文藝運動の擡頭であり、此の藝術戰線の發刊である。若しこゝに日本の文藝運動史を書く人ありとすれば、此の藝術戰線の發刊は文藝運動に一時期を畫したものとして特筆すべきものである。しかも、老革命家堺利彦氏の多年の勞を犒ふため、各作家評論家が自信の作を提供し合つたといふ點を考へて見ても、此の藝術戰線は他の創作集と趣を異にして、非常に意義のある企てゞあるといふことが誰しもうなづかれる。細評は次號にゆづることにして是非種蒔く人の讀者に讀んで貰ひたい。（賢三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

農民と小作組合

山川　均

（一）

近頃、農村の問題が急にやかましくなつて來た。土地は漸次に大地主の手に兼併され、自作農が段々土地を失つて小作農となつて居ることが今更のように、やかましい問題になつて居る。

然し之は今さら事新しく起つた事ではない。僅かな土地を持つてゐた自作農が、愈々その土地を手放すまでには、云ひ知れぬ苦い何年かの悲慘と苦痛と戰つて戰つて戰ひつづけたあげくのはてである。農民は殆んど人間の生活とは思はれぬような生活をも忍んで來た。彼等は何とかして、土地だけは持つてゐたいと思ひ永年の間食ふ物も食はずに借金と戰つた。しかしとう／＼持ちこたへられなくなつたので、遂には僅かばかりの土地を手放して、小作農になつたのである。

この永い間の農民の苦痛を知らぬ顔をして見てゐた政府や、議會や、政治家や、乃至は學者とか篤志家とかいふ連中が、俄かに起つた事柄ででもあるかのように、急に此問題をやかましく云ひだしたのは何故だらういふまでもない、到る所に、續々小作爭議が起りかけたからである。農民は我慢の上にも我慢をしぬいたあげくのはて、愈々我慢がしきれなくなつたので、小作人組合を造つて地主と戰はうといふ決心をした。若し小作人が此の決心の臍をかためないで、何時までも地主の云ふなり次第になつてゐたならば、政府も議會も何時までも農民の生活の悲慘を振り向いても見なかつたに相違ない。

（二）

おくれ走せにも、政府や議會が氣のついたのは結構である。そこで今年の議會では小作爭議が問題となり、政府でも小作制度の調査をやり、學者や政治家は、何でも小作農を助けて、土地を買はさせて自作農にしなければならぬと云ひ、農會や產業組合大會までも、其爲に便宜を計る決議をした所もある、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しかし其爲に農民の生活が、それだけ善くなつたらうか。政府が何年の間、小作制度を調査して呉れたとて、地主の土地を小作農に呉れる氣遣ひもなければ、小作料も拂はずにすませて呉れる心配もない。いくら自作農になれ、なれと云つた所で、金が無くては土地は買はれない、金を借れば利子がつく。いくら低利資金と云ふても無利息ほどに安い低利で金が借りられよう筈はない。今まで持つてゐた土地すら手放さねばならぬものが、いくら低利にせよ、借りた金で土地を買ふて立ちゆく道理がない。（一）

政府や議會や、政治家や學者といふ連中が、わい〳〵云つて居るうちにも、僅かに農民の手に殘つてゐる土地は、段々大地主に取られてゐる。そして土地の無い農民は、小作料といふ名前で、汗と脂とを搾られて居る。

之に反して小作農が組合を造つて地主に對抗して戰つた所では、兎も角小作料をいくらかでも安くし、それだけ農民の生活が樂になつて居る。

（三）

して見れば、農民を救ふものは政府や議會や政治家ではなくて、農民が自分自身で、地主と戰ふことである。

しかし農民は一人々々で地主と戰つたのでは、とても勝利を得る見込みはない。その代り多數の小作人が一致團結して地主と戰ふ場合には、とても地主には勝利を得る見込みはない。

團結は農民の力である。そして農民の團結が小作人の組合である。

農民は先づ一村一村で小作組合を作り、一郡の小作組合代表者が集つて、郡の聯合會を作り、更に一縣内の郡聯合會の代表者が集つて、縣聯合會を作り、最後に小作組合の全國聯合會を組織しなければならぬ。

農民を救ふものは、唯だ農民自身である。農民自身が、地主と對抗して戰ふことである。そして地主に對抗して戰ふ力を農民に與ふるものは唯だ小作組合である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

農民藝術の考察

農夫喜兵衛の死

今野賢三

一

都會人の生活味を、多分に持つてゐる人にほんとうの土臭——はわかりよう筈がない。

土臭は拭ふても拭ふても洗ひ去ることの出來ない農民の垢だ。尊い垢だ。

農民藝術を口にするならば、先づこの土臭——に眼をむけなければいけない。小牧君のいはゆる『大地の怒り』そして土臭の發散でなければならない。

腹の底からまでも、土臭——のたゞよつてくるのは中西氏の農夫喜兵衛である。

今まであまり深く中西氏を知らなかつた私は、氏に、いゝみやく／＼と農民の眞赤な血が波打つてゐることを知つてある驚きをさへ感じた。

藝術的な立場から言つても、『農夫喜兵衛の死』は、中西氏の他の諸作に比べてはよほど藝術味に富んでゐる。

その表現は、清新な、潑溂、としたものでないかも知れない。けれども、あのいづこの農村からでも伺ふことの出來るやうな、美しい叙情味が、全篇をながれてゐて藝術的香氣を發散させてゐるのは、つまり、農村が持つてゐるところの、情緒——そのものではないのだらうか？　と考へる。

たとへ、どんなに荒廢した農村でも、自然にめぐまれたあの粗野な、單的な生活には、ひとりでにふつくらとした情緒がかもされてゐる筈だ。その情緒は、近代的な形容や、色彩づけることに依つて表現され得べきものではない。この點から言つて、中西氏の表現は、古いと言はれるかも知れないが、農村の情緒を立派に出してゐるが、あまりに情緒——を、やわらかに出しすぎた傾きが

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ある。それがためなんとなく力弱くなつてゐる傾きがある。もつと荒けづりでもよかつたといふ氣がする。

二

小作人としての農夫喜兵衞は、細川といふ大地主に借金をかへすため、村の青年賢三と戀中になつてゐた娘のお芳を、女郎に賣らなければならなかつた。從順な娘はかたく誓つた賢三と別れる身を裂かれるやうな悲しみのなかにも決して親を恨むとか、反抗しようとかいふ氣はつゆほども起さなかつた。まして、地主に對しての反抗などは、美しい娘心に、芽を出さう筈はない。

私は、自分の郷里の秋田の田舍にも、かうした農夫を見る。かうした娘を見る。

傳統的な奴隷道德であるところの、いはいる人情の美に溺れ、奴隷である光榮の義理にしばられ、娘を藝者に賣り、女郎に賣る。その親は、地主をあくまでも尊敬するやうに運命づけられて、生涯の勞力を吸ひ取られる。そして自分たちの、娘を賣らなければならないやうな生活の窮迫がどこから來るかといふ事を少しも深く考へてゐない。そして、考へちやいけない——といふ、奴隷にあたへられた方則をかたく守つてゐる。後生大事に守つてゐる。

しかし、喜兵衞のみならず、すべての小作人の魂には虐げられてゐるものゝ、反抗と、憤怒と、解放を欲する叫びはひそめてゐる。いつぱいにひそめてゐる。

が、小作人は、それを外にあらはしてはいけない、地主を有難く心得ろ！といふ、いはいる奴隷にあたへられた法則を、守らなければならないやうに養成されるのである。

無智な農民は、法則にうらぎつてゆく、解放と反抗の魂の叫びに苦む時、『あたへられた運命』として、佛樣の前とあきらめる。が、あきらめきれない時は、どうするか、やけになつて自ら求めて死を急ぐ。

喜兵衞は、息子を戰爭にとられて、狂人になつたお島といつしよに死んだのだ。

喜兵衞は、その娘を女郎に賣り、悴を戰爭にとられ、力とたのんでゐた末の子の傳作には逃げられ、寂しさと呪咀と、憤怒を抱いて、此の世を去つたのだ。

此の現實——は、農夫喜兵衞の死——の、此の小說が語つてゐるばかりではない。現在、かうした事實はざらにある。どこにでもころがつてゐる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

無智にして善良神の如き農夫喜兵衛は何故死なねばならなかつたのか？

憶！ 此の現實……。

三

農夫喜兵衛の死をして、藝術的に價値づけてゐるのは十四になる傳作の描寫にある、傳作の魂の眼醒めをつかんでゐる點に於てゞある。

『あとに五俵ぐらゐより殘らないやうになると、がつかり力拔けがした。なんだか知らぬが無性に悲しくなつた植付からこつちの長い間の勞苦が腹立しくさへ考へられて來た。幼い心にもかうしたことが、なんだか道理に合はないことのやうに考へられてならなかつた』

地主に米を取られることに對して、傳作は、此の時、疑ひと不平を持ちはじめた。

米を運んで來て、喜兵衛は、細川家の臺所の隅に恐縮して腰をかけた。二人は草鞋も脫がずにぢつとかしこまつてゐると、二つのお膳がならべられた。

『まア、これで納米もすんだわい、傳公も御苦勞やつたな……』

喜兵衛はやさしいことを言つた。傳作も、妙にさびしい中に嬉しさがこみあげて來た。

『喜兵衛は、鹽が吹いて白くなつてゐる鮭の切味のはしをちよつと缺くほどむしつて口へ入れた。

うん、それはなか〳〵しほが甘い。良え鮭や……。傳作は、飯の塊りの中へ、その鹽味が唾液に溶けこむと、先刻喜兵衛が云つたやうに頰げたが落ちるほどうまかつた。

『傳公……』

傳作が、しきりに飯をついでもらつて食つてゐると、喜兵衛はかう言つた。

『うん？』

『お前、よう食ふな？』

喜兵衛はさすがにほゝ笑んで云つた。

『……』

『はゝゝ、まあえゝ、食ひたいだけ食え、今日はお前達が一年中稼いで作つた米をこの庫へみんな持つて來たのや、お前一人ぐらゐのこつちや、食ひたいだけ食つてやれ……』

喜兵衛の膳には、最初むしり取つたばかりで、まだそつくりして鹽鮭の切味を、腰に挿んでゐた手拭の中へ包

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

んでしまつた。

『な傳公、家にはお母も、よつちやんも待つてゐるのやよつてな……』

喜兵衛はかう云つて、手拭に包んだものを、そつと懐中に入れた。傳作は、その時ばかりはあたりを見廻した』

こゝらの描寫などは、少しもたくらまずに生きてゐる。かういふ描寫は、空想などでは一寸つかみ得ないところだ。

傳作の性的成長も、最も人間的にとりあつかはれてゐる。

『彼は町の者から、蛙切りだと冷笑された。工場へ通ふやうになると、墓だと罵られた。傳作はさうした人間達が、自分の行く先きについてまはつて、自分をどうしても輕蔑し凌辱して、快いほゝ笑みをもらす惡魔のやうに考へられた……』

傳作がかうして、少年時代から、いぢけた氣持、反抗の氣持、虐げられたものゝ暗い氣持を植え付けられて、成長後は、きつと喜兵衛の憤怒と復讐の魂をハッキリ感ずるやうになるのであらう。

現在の中西伊之助氏の少年時代に、傳作の面影を見るやうな氣がされる。

（七、四日）

公園で遭つた百姓

金子洋文

一

私は秋田の土崎俗に港と言はれてゐる産である。

二年ばかり前から氣がつき始めたが、郷土の人間の一人／＼が、ロシヤ文學に出てくる田舎の人間と實によく似てゐる。高利貸の町會議員でも、政治狂で三百代言の床屋でも、死んだ五助といふ按摩でも、暗い癈港を背景にしてみなそれ／＼に一つの役割をもつて動いてゐるロシヤの芝居に出てくる人達のやうに思はれる、私の親

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しい主義者でも會社員でも色町の女でも、みなチエホフかトルストイか、ドストエフスキーかに描れてゐる人物そのまゝである、これはすぐさうした色眼で觀たがる、私の癖ばかりとは思へない。

ことに百姓は似てゐる、私は去年の秋郷土でトルストイの晩年の作品を一つ／＼味ひながら讀んだが、トルストイの描いてゐる百姓が、實にそつくりそのまゝ秋田の百姓である、あまり似てゐるのでおどろいた位だ。私が自分の田舍を背景にして書いた「狐」に出てくる老人を、トルストイの書く老人のやうに理想化してゐると、都新聞か何かの批評で讀んだが、あゝした老人は、郷土では珍らしくない、まるで佛様のやうな老人さへゐる。

二

去年の秋、郷土にゐる間、私は毎日のやうに廣い原つぱをつきつて町端から七八丁はなれてゐる公園に通つた、そして高臺に立つて自分の生れた町を見るのが、この上なく樂しかつた。綠にかこまれたこんもりした町、白い川、廣い大きな日本海……そのなつかしい眺めの中から、さまざまな過去が私の眼に歸つてくるのであつた。

公園の運動場で隣接してゐる寺内村の百姓達が八ッ目鰻捕に使ふ太い繩をなつてゐた。私はその賑かな聲をきゝながら、少年の頃、海から眞直に走つてくる吹雪にさからひながら、自分の背より大きな八ッ目箱を脊負つて大濱へ鰻を買に行つた時のことを考へた。

その當時私の家は一番ひどく貧乏してゐた。父は病床についたきりで母親の手で食べて行かなければなかつた母は吹雪の中を毎晩のやうに五合、一升の米を買ひに出掛けて行つた、それさへ買ふことが出來ない日があつた――。

自分はまた八ッ目鰻の一番網か二番網（河口に近い漁の多い場所）をくぢにひいて上機嫌で祝酒に醉つた時の父のことを思ひ出した。父は寒中毎朝二時前に起きた、そして土間に座つて鼻唄をうたひながら鰻をとるどをあんだ。私は三時頃起きてどを網む葭の皮をむいた、私は父の傍でいつか自分のこしらへる小さいどを頭の中で空想してゐた。

父は氣輕で、八ッ目賣の女達にいつも冗談を言つてゐた。私はその冗談を面白く聞いてゐた、太つた女達が腹を抱へて笑ふのを見て、自分の父はえらいのだと思つた。

腹一杯笑つたあとで、女達は八ッ目のはいつてゐる箱を脊負つて、町へ出掛けて行つた。そして、吹雪の中を『八ッ目、八ッ目』ふれて賣りまはつた。

ある日、町の眞中で『八ッ目賣』の女と、八軒町の海産物問屋の子供達と喧嘩した、子供達は雪だまをなげつけながら『八ッ目賣、ごけ女』と惡口をたゝいた、それ以來私は、八ッ目賣は卑しい商賣だと思ふやうになつた——が、いつの間にか、私も卑しい八ッ目賣の子とならなければならなかつた、私は貧しい自分の一家を悲しく思ひながら、大濱へ八ッ目を買ひに出掛けて行くのであつた。

三

こんなことを考へてゐた時、突然。

『あんさん、いつお歸りであつたす』

と、聲をかけた人がゐた、振り返つて見るとそれは百姓であつた、片方の眼が三角形で何かしやべる度に薄い唇が左の方にひきつつた、私にはその百姓が誰だかわからなかつた。

彼は元氣のいゝ田舍言葉で自分を語り始めた。彼は寺内村に住んでゐる、父の知合であつた。

『お前はんのおとさんも、昔は八ッ目取の仲間であつたねす。』

それからその百姓は吾妻屋に腰をかけて一人でしやべり出した。

百姓の話は非常に面白かつた、彼は三角形の眼を上に向けて海を見たり、私の頭の毛を珍らしさうにぢつと眺めたりして（彼は皮肉な百姓だつから『はあ、こゝに立派な雀の巣があるぞ』と、腹の中で獨言したことだらう）語り出した。

彼の話は徹頭徹尾他人の惡口であつた、かりに誰かをほめてもしまひにはきつと惡口が出て來た、しかしその惡口が面白かつた、腹に毒氣が少しもなかつたから。

彼は私にいろんなことを話して聞かしたが、一番面白かつたのは、港の騷擾事件で檢事を馬鹿にした話であつた。

私の港で、一つの大きな騷ぎがあつた、それは國會議員選擧の不正事件で、氣の早い港の青年達が、町民大會を開いて、そのあげく政友會の首領の家を三軒ぶちこはしたのであつた。その時の證人に彼は呼ばれたのであつた。『（旦那はん、俺あのやうにどんざ。（汚ない着物のこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と）着てゐる百姓に、そんなむづかしいこと、何わかるもんだてでげ……これで調べはおしまへえす……、檢事なんて奴等をだますにわけねえこたつすて、俺あ簞笥にい丶着物の一枚二枚持つねぇことはねえが、つまらねえことで、毎日大事な時間をつぶすなあ、かなはねえからねす、あいつ等あ、それでまゝ（飯）たべにい丶からいがべども、俺あの方は口が干あがつてしまふすて、だから俺あ、ちやんと、どんざで出かけて行つだのす……』

かう言つて、彼は大きな口を開いて、氣持よささうに笑つた。

村の物識り、村の皮肉家、こんな型の百姓である、かうした百姓は政治好で、官吏と言へば何でもかでも嫌ひである、私は彼の心の底に動いてゐる、氣づかれてゐない一種の反抗意識と、毒氣のない、正直な悪口とを非常に面白く思つた。

が、或は彼は毒氣のある、腹の黒い人間かも知れないさうした百姓もたしかにゐる、しかし、私の眼に映じたやうな百姓もたしかにゐる。

一時間ばかり話して私達は別れた。この男は、いつか何かの形で私の書くものに出てくるだらうと思ふ。

（七月一日）

議會と農業問題

海野榮

小作爭議が各地に勃發し、農業問題が世間の視聽を集めた時、現在の政黨は農村振興の建議案を議會に提出した。地租の委讓、地租の輕減、低利資金の融通、地方費の節約等に依つて、衰微しつ丶ある農村を振興さし、小作問題を一掃し、自作農を奬勵すると言ふのがその口實なのだ。

然し之等の議案は一見すると如何にも農民全體の福利を増進するために提出された様に思はれるが、事實は決

してさうではない。それは豪農とか田紳とか呼ばれてゐる小數の地主達の利益を計る爲め、田紳代議士の手を過て、政黨から提出されたのである。何となれば、地租の輕減、委讓と言ひ、資金融通、地方費の節約と言ひ、是等の政策に依つて直接裨益せられる者は、地主階級に限られてゐて、多數の小作民や、自足自給の原始的生活を營んでゐる自作農民は、之に依つて何等益する處がないからである。

地租が輕減されたからと言つて地主は小作人に對する搾取の程度を緩めるものではない。恐らく彼等は、輕減せられた租税を持つて、困窮した自作農民から新に田地を買入れ、小作人に其を耕させる事に依つて、益々私腹を肥やして行かうと努力するだらう。地租の輕減は結局地主の勢力を增大し、自作農民を小作民に化し、小作人の數を增加さす許りだ。又之と反對の場合――地租が高められた場合――を考へて見ても、之と同樣の事が言へる。地主は地租が高められたことを口實にして、それ丈けの小作料を高めて行くから、彼等は何等の痛痒も感じない。單に痛痒を感じない許りではない。小作民は小作料が高められるため以前以上の貧困の狀態に置かれるから、地主の勢力は其丈け增大することになる。彼等は餓死を免れるために地主の暴逆を許諾せざるを得なくなるからだ。さもなくば農村を棄てゝ、都會の工場勞働者となる一途あるばかりだ。一方、祖先傳來の僅か許りの土地に依つて生活してゐる自作農民はどうかと言ふに、彼等はたゞでさえ過分な租税の負擔が一層加へられるのであるから、到底之を双肩に耐えて行くことが出來なくなつて來る。現在でさえも、水田一反に十八九圓からの税金が課せられてゐるのであるから、これ以上の負擔に耐えられる道理がないのだ。從つて彼等は田地を地主に賣拂つて小作人となるか、或は都會に出て賃銀勞働者となるかせねばならなくなつてくる。このやうな狀態にあるのであるから、小作民が政府から小額の低利資金の融通を受けて新に自作農を開始したとて、生計の立つ筈がない。資金の融通も結局は地主の爲めのものであつて、小作人は決して其を利用し得ないのだ。

即ち現在の政治が如何に地租を增減しやうと、資金を融通しやうと、其に依つて益するものは小數の地主達で一般の農業勞働者は何等の利益を得ない許りか却つて貧困の度を增して行く許りだ。そして時代が遷移するに從

つて、農村に資本主義が侵入して來るに從つて、自作農は段々減少し、土地は小數大地主の掌中に集積せられ、小作民の數は益々増加し、彼等の貧困は益々激しくなつて來る。そこで地主と小作人が農業地に於いて對立して小作爭議が激烈になり、地方の壯丁は都會に吸收せられ農村は益々衰微して行くのだ。現在の議會が如何る政策を施さうと、この大勢を如何とも致し難いのだ。議會の行ふ總ての政策も改良も結局地主の利益の爲めの改良政策であつて、一般農民の利益を少しも增進しないからである。

『何故であらうか。

『その答へは極めて簡單である。現在の議會は工業家、金融業者、地主、一言で言へば、資本家の議會だからだ資本家の御用議會だからだ。資本家の利益を代表し、擁護するための議會であつて、一般民衆の爲めの議會ではないからだ。故にこの資本家の護衛議會を撤廢し、純然たる無產階級の利益を代表した無產階級の議會を新に建設するのでなければ、農民は永久に現在の悲慘な狀態から脫することが出來ないのだ。卽ち、若し農民にして地主の奴隸を脫しやうと慾するなら、都會の工場勞働者と提携して、革命に依つて資本家議會を撤廢し、全々新らしい經濟關係を基礎として無產階級議會を樹立して、地主を征服するの一途ある許りなのだ。

然し忘れてはならない。この大業は決して無產農民階級單獨の行動に依つて成就せられるものでない。この必然的、歷史的使命を果す爲めには、必ず都會の賃銀勞働者と提携して事に當らなくてはならないのだ。都會の勞働者と合體し、唯一の合成意志を表はして事に當る時、初めて彼等は勝利を博し得るのだ。階級鬪爭は平等の權利を基礎として行はれるものでない。無產階級全體が唯一の意志を現はし、……………………

……………………、……………………。

……………………………………。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

農村青年と語る

香里英夫

(一)政治運動の要求

『昔と今では、僅か十年位の相違ですけれど、すつかり變つて終ひました。今日では十年前の半分の人口しか殘つてゐません』。

『どうなつたのですかね』。

『家は大抵はそのままで殘つてゐます。小さい家が、年年に大きい家に買ひ取られて、家だけは、そのままに殘つてゐます。しかし、その家に住んでゐた人間は、みな他國へ行つて終つたのです。一年ごとに關西方面、重に大阪ですが、その方面へ移住して終ふのです。』

『どうして、そんな事をするんですかね。生れ落ちてから育つた故鄕を棄てて、子供の頃から手慣れた百姓を廢して、都會へ出てどうしやうと云ふのですか。彼等もやはり、虛榮に騙られてゐるんですね』。

『何です、虛榮だ― くだらない馬鹿は止めて貰ひませう。貴方達のやうな、紙の上でばかり小理窟を並べてゐる人間には、故鄕を棄て家や田畑を賣つて、他國へ出て行く百姓の心持はわからない。貴方も今日此處へ來られる途中で、到處の農村の荒廢、田畑の、未耕作のままで草の生え放題になつてゐるのを見られたでせう。この土地程、百姓の勤勞する土地はありません。農閑期には必ず、近くの町へ出て行つて、土運び石運びの道路修繕に雇はれて働らきます。冬期になつて、全く何もできなくなれば、暖かい關西方面へ出稼ぎをして、金を溜めて歸つて來ます。そして、どうですか、世間であんなに嫌がつてゐる軍隊へ入ることを、この土地の人は反對に喜んでゐるんですよ』。

『可笑しいですね。……………、…………、とさへ云ふ人があるのに』。

『可笑しいでせう。しかし、その理由が貴方にわかりますか』。

『わからない』。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『さうでせう。この村の百姓生活を體驗した人でなければ、それがわかる筈はありません。この土地では百姓をしてゐては、どんなに他國で働らいて來ても、食へないんです。地主に小作米を搾られる、町の商人達からは粗製品を高價で賣りつけられて搾られる、そして稅金として取り上げられる金も、大部分は近隣の町の經費に使用される。自分達百姓は、米や麥を作つてゐながら、その米や麥が滿足に食へないんですよ。ところがです、軍隊へ入ると、麥飯ではあつても、兎も角も安心して食へる一週間に一度は遊ぶことができる、勞働——演習や勤務は、百姓仕事よりか、ずつと樂だ、だから若い者は兵隊にとられることを喜ぶのです。誰がも少し食へさへしたら、あんな軍隊なんかへ行くことを喜ぶものですか。』

『僕の國でも、舊藩時代に、生活難から百姓が他國へ逋亡した歷史があります。その時、藩主は國越えの罪科を設けて、逋亡しやうとした百姓達を嚴刑にしたさうですそして相變らず、百姓達に重稅を科して搾りあげたと云ふ記錄が殘つてゐます。その子孫達が、いまになつて時代思潮に目覺めて來て、農民の自覺を云ひ初めました。そして小作爭議を起してゐます。小作の田が、どしどし地主に返還される、賃銀値上が要求される。大抵の地主は弱りきつてゐます』。

『さうですか。しかし、この土地では悲しい事には、爭議を起すだけの力さへも盡きてゐるのです。戰爭するには兵糧が肝心ですが、その兵糧がないのです。だから、皆が絕對絕命の結果、貴方の所謂國越えをするのです。御覽になつたでせうが、この村で若い者は少くて、老人が多いのは、やはり國越えの結果もあるのです』。

『さうして國越えをした果は、どうなるのです。都會へ出た人達はどうしてゐます』。

『結果は農村の滅亡、農民の流浪といふことになるのです。だから、現在のままでは長くは續かない。どうにかしなければならぬ。それには政治だ。かう云ふ要求が非常に強くなつて來てゐます』。

『つまり普通選擧の要求ですね』。

『さうです。大多數はまだ、普選の要求です。しかし、少數者は既に土地の所有權、生產物の所有權を要求してゐます。そして、それを實施しない政治なら、自分達に關係はないんだと云つてゐます』。

『それは解釋の仕樣によつては、私有財產制の極度の要

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

求だとも思へますね』。

『…………………………』。

『さうです。だから吾々は、この現在農民の政治に對する要求を、誤らないやうに眞の無產階級解放のための政治運動としなければならぬと思ひます』。

『それをするには、まづ現在の農村に對つて撒き散らされてゐるパンフレット類の內容を、もつと平易にして欲しいのです。一般の農村大衆は、現在のパンフレットでは、少しむづかし過ぎて滿されないものがあるのは事實です。そこへ行くと革新俱樂部あたりの普選論が、農村では歡迎される傾向があるのです。無產階級の解放は、普選に依つては決して招來されないと云ふことを、農村の人達に信ぜさすには、仲々の困難です』。

『革新俱樂部はそんなに歡迎されるのですか』。

『××や△△なんかの演說は、何時でも何處へ行つても割れるやうな騷ぎですよ。何と云つても、彼等は靑年の心を摑む術を心得てゐますからね』。

『それはどう云ふ理由ですか』。

(二)「民衆の中へ」の政治

『彼等はよし理想主義者ではあつても、同時に同程度の現實主義者でもあると云ふことです』。

『成程』

『彼等は決して抽象的な議論はしません。その土地の問題や人物に就ての議論をします。そして外國の例を引用するにしても、日本を主にして外國を從にして議論して行きます。ほとんど明確な社會主義の輪劃すらも、頭のなかに入つてない農民に、突然外國の話をしても、理解してくれる筈がないのです。ましていかに智識を要求してゐると云へ、餘り文字に親しみのない農民に、むつかしいパンフレットを與へた所で、讀んではくれないのです恐らく彼等はそれを押入にそつと納つて置くだけでせう。恐ろしい社會主義の本だからと云ふ好奇的な理由で』。

『それは少し酷評ですね』。

『否、むろん例外はありますよ。しかし私はいま少數のその例外に就て話してるんぢやありません。漸く普選運動の程度に興味を持つて來た連中に就て云つてるんです』。

『成程、さうすると、その革新の連中の普選論を打破るには、そして今一歩も二歩も三歩も運動を進化し深化さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

すには、どんな方法があると貴方は考へますか』。

『私はこの土地の狀況だけを考へてのことですが、今日以後こそ眞に所謂「民衆の中へ」と云ふ運動が必要なのだと思ひます。その「民衆の中へ」と云ふのは、かなり決死的な意味を含んだ「民衆の中へ」の運動ですよ。反動恐怖が、かう強くなつて來ては、ますますこの「民衆の中へ」が必要だと思ひます。否必要以上、……………………………………、……………………………………………………………。………………………………、…………………………………………………………』。

『農民のなかへ潛ぐりこむのですね』。

『だつて白色恐怖は、もうそれを初めてゐますよ。この春の農會の役員の爭奪戰はどうでした』。

『縣會の選擧も、もう目前に迫つて來ましたね』。

『それに對して無産階級はどれだけの準備をしてゐますか、大きな日本政府をどうとか、議會をどうとかの問題は、盛んに鬪議されてゐますが、この縣會や郡農會の問題に就て、貴方達同志は何も考へてゐてはくれないぢやありませんか。ところが農村の人達は、まづこの郡農會や縣會の問題が、各自の實生活の上に大きな影響を投げゐるのですよ。現にこの附近でも、思想問題とか社會問題とかの講演會と云ふと、餘り人數が集らないんです。しかも集つた人達の殆んど全部が眞の農民ではなく、大抵は地主の息子位が遊戲的な氣持からやつて來るんです。まつたく暇潰しに來るんですね。ところが小作問題だとまるで反對の現象が起るんです。素張らしい人數が、熱心に集つて來ます。そこで抽象的な革命論でも說いたらもうお終ひです。皆は默つて聞いてはゐるでせうが、心の中ではその講演者を輕蔑してゐます。演說は下手でもいいから、その土地の農の實生活に就て話すのです。そしてこの農民達が、現在何を要求してゐるかを、よく訊ねてやるのです。そして、その要求に對して適當な解釋と指導とを與へるのです。決してそれ以上に出ては不可ません。……………………………、…………………………………。…………………、………………………………、………………、………………………、……………、…………………………、……………、…………………………。決してバンと要求しないものに、無理

やりに理窟でパンの必要を、彼等農民の頭にねぢこんでは不可ないのです。さうなると、農民は必ず背を向けて逃げて行きます。吾々は農民に對して決して理想主義であつてはならないのです』。

『さうです、吾々は餘りに理窟に捕はれ、餘りに足下を不注意にしてゐます。しかし、それでは吾々はただ、農民に曳づられて行くのであつて、何處に農民に對する啓發があるのですか』。

『私は斷言します。農民を啓發すると稱する思想家達が自分も一個の農民として、大きな農民の集團のなかに——農村の住民のなかに、溶けこんで終はない限り、その運動は無效ですよ。それでは「民衆の中へ」ではなくなります。…………………………………………、
……………………………………………………。
……………………………………………………。
……、人間の生活そのものなんですからね。芝居氣たツぷりで跳ね廻られてたまるものですか』。

『その點は僕も貴方の意見に賛成します』。

(三)プロ作家は屁の如し

『農村はいまゝ決して裕福ではありません。一家五人が懸つて、田から上げる金額の何倍の金を、工場へ出てゐる十八九の小娘が一人で造るのです。かう云つて私に自分の娘を自慢した農家の母親がありました。漸く人間並な生活になつて來ると、町の連中は「百姓の分際で贅澤だ」と云ひます。それ程に、農村の生活は虐げられて來たのです。農村の青年は常に文化から遠ざけられて來たのです。現在、この村で雜誌を讀んでゐる者が幾人あると思ひますか。彼等青年が、現代の文化に浴しやうとする前に、まづ頑迷な家庭の人達と衝突しなければならないのです。それから烈しい勞働に疲れた肉體とも鬪はなければならないのです。その次には、自分の周圍の嘲弄です最後に來るものは「官憲の壓迫ですよ。「百姓の分際で、彼奴は本を讀んでゐる。どうも危險思想だらう」。嘘のやうな話ですが、釋放や改速を讀むと云ふので、世間は危際思想の持主にして、壓迫したり相手にされなかつたりするのです』。

『いや、その事は僕にもよく解ります。僕もある田舍でその土地の警察が僕を狂人扱ひにして、世間へ盛んな宣傳をしたものです』。

『農村でも、ずつと文化の開けた所はかうでもないでせ

う。この土地のやうなのは例外なのでせうが、かうして周圍や自分と鬪ひながら、仕事をして行かうと云ふのですから、農村の青年が運動を起す時には、かなり眞劍な止むに止まれない要求から動いてゐるのです。散髪代を險約してまで、本を買つてゐるのです。だから、ふざけた事でも書いてあると、讀者はかなり感情を害します。プロレタリア作家だけれど飯のために文章を書くのだといふ態度を、農村の青年達は理解できませんからね』。

『さう云はれると、何とも言へないのです』。

『一體、プロレタリア文學とか云つてるのは何ですか。どこにプロレタリアの情感が描かれてゐるのですか。なかには、いいものもあると思ひますが。大部分の作は』。

『大部分の作は、どうといふのですか』。

『けしからんものばかりだ、と云ふのです。殊に貴方の作なんか、さうですよ』。

『いや、もう參りました』。

『あんなものを書いてゐて、貴方は恥かしいと思はないんですか』。

『大に思つてはゐるんですがね』。

『思つてゐるんなら、もうあんなものを書くのは止しなさい。さうでないと、貴方は仲間から見離されますよ』。

『承知しました。もうあんなものは今後、決して書かないことにします』。

『私達はいま、現在のこの生活を、どうしてよりよく仕様かと思ふだけで、もう一杯なんです。だから、その事に役立つものなら、讀んでも見たいし、買つても見たいですが、それでなければ、何の呑氣さうに、ありもしない金で本を買ひ、ありもしない時間を無理に割いてまでも、本を讀むものですか。私はそこいらのプロレタリア作家と云ふ人達に、かう云つて吐鳴つてやりたいんです「さあ、俺のこの着物の匂を嗅いで見ろ。何、貴様はもう鼻をつまんだな。よしか、これが農民藝術の持つ匂なんだぞ。貴樣はこの匂を理解することも出來ない癖に、農民作家だとか、プロ作家だとか吐かすんだな。貴樣は都會の立派な家の安樂椅子に寢そべつてゐながら、俺達百姓を教える氣でゐる。貴樣が喰つてゐる甘いビフテキのかはりに、鹽辛いこの太根を嚙つて見ろ』。

『どうも素破らしい氣焰ですね。まるで内藤君のやうですね』。

『だから貴方も書くのはお止しなさい。貴方には到底、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

プロ作なんて書けやしませんよ。貴方の作なんか讀まされたつて、私達は屁の役にも立ちやしません』。

『これでも稀には、お世辭かもしれないが、親切に賞めてくれる人がある』。

『それで貴方はいい氣になつてゐるんですか。だから貴方はお人好しだつて、方々で笑はれるんですよ』。

『しかし、嘘にもしろ、親切に僕のことを心配して下さる人達もあるんだから、その人達に對しても、これからは、一生懸命でいいものを書かなくつちや濟まないでせう』。

『それでは御勝手に。しかし、吾々勞働階級は、貴方のやうなプロ作家なんかに關つてはゐられないから、此方も勝手に先へ歩いて行きます』。

『さう云はれると、香里英夫も一言なしです』。

『これでも、まだ夢が醒めきらないんですか』。

『ああ忠ならんとすれば孝ならず、孝ならんとすれば忠ならず……』。(と云ひながら假睡しかける)

『何を寢言を言つてるんです。世間一切、ああ、ああ、プロ作家屁の如し。普選論者よりまだ始末が悪るさうだ。これで革命家のつもりで、農民を指導するのだと云ふから、頭の悪るさが思ひやられる』。(と狂言しながら立去る)

(四)大團圓＝編輯長と記者の對話

『夏向は讀者諸君に對しても、あつさりしたものが適當だからと云ふ編輯長の意見でしたから、大にあつさりと銀ぶら氣分で、こんなものを書きましたが、いかがなので御座いませうか』。

『いや、仲々面白いですよ。晝寢をしながら、鼻から提灯を出してゐても、最後まで面白く讀ませるところは、やはり君の迷筆です』。(と云ひながら、後方を向いてクシヤミをする)

『私も實はさう思ひまして、大に決心をして編輯長の所へ持つて來たのです。お賞めに預つて、どうも、その、非常に、大に名譽を感じます』。

『いや、面白くて、それでゐて無限の教訓が含まれてゐます』。

『實は私はKの青年達から、プロ作家屁の如しだ、普選論者より頭が悪るいと、こつぴどくやッつけられましたが、何を糞、そんな批評こそは屁の如しだ。何でもこれからは、腕に一番撚りをかけて、襟頭つかんで今日まで

引擦り上げて貰つた、友達に御恩返へしをするのは、これからだわ屁と、屁の如く輕々と歸つて來ました』。『まつたく君の文……(クシヤン)章は面白い。君はプロツ(クシヤン)プロレタリアツ(クシヤン)。これで僕等も』(クシヤツン)と續けさま。『風邪をひくといけませんよ』。『いやもう(クシヤツ)ひいとる|(クシヤ、クシヤ、クシヤ、クシヤン)』

——七月二日——(完)

農村と思想家

山田清三郎

この四月の中旬であつた。僕は所用があつて久し振りに關西地方へ出かけたが、その時僕は紀州から大阪に向ふ列車の中で、大和の橿原神官へ參詣して來たらしい、五六十人の青年團の一隊に會した。彼等の取交す言葉に依つて、彼等が南河内あたりの農村青年であることがすぐにわかつたが、僕は彼等が、今尚軍國主義の熱病にとつつかれてゐることを知つて、驚かずにはゐられなかつた。

彼等は何れもカーキ色の軍服に似たものを着てゐた。服には幹部だとか、斑長だとかいふ階級をつけた肩章があつた。そして彼等は盛んにラツパを吹いたり、軍歌を高唱したりして、天晴れ忠臣愛國者氣取りを發輝してゐた。

僕はその時、我國に於ける農民の啓發は、容易な業ではないと思つた。在鄕軍人や、かうした青年團の手に依つて、所謂急進思想のあらゆるものは、今後恐らくは農村に於て、頑强に阻止されることであらう。

都會に於ける勞働運動の如きは、今や勞働者の自覺に依つて、ある程度まで勞働者夫れ自身の力に依つて行ひ得るまでに立至つた。プロレタリアの覺醒と啓發を天職とする思想家達は、今後は農民運動を呼起すために、その力の大部分を割いて、農村に向ける必要があらうと思ふ

戰士高尾平兵衛君を弔ふ

解放運動の戰士高尾平兵衛君は、五月二十六日未明、同志と圖つて赤化防止團を襲ひ、懲戒の目的を果しての歸途、團長米村の卑劣なる射擊の爲めに仆れた。この階級戰の戰死者を弔ふ爲め、全國の勞働組合思想團體は六月八日青山齋場に於て、君を社會葬にした。本社の同人及び青年部員はそれに列した。本社代表は次の弔辭を靈前で朗讀した。

弔辭

無產階級運動の戰士高尾平兵衛君は、支配階級の御用運動者の爲めに悲壯な死を遂げた。吾人はこの燃ゆる如き…………、共同戰線の提唱者の死を、衷心から悲しむと同時に、同志高尾君の血を路上に流せる反動運動者を銘記する。………
…………………………………………
………、……………………………。
…………………………………………
…、……………………………………。これ
眞に高尾君を弔ふ所以である。

これを以つて弔辭に代ふ。

一九二三・七・八

種蒔き社

高尾平兵衛君のこと

　明治四十三年の『大逆事件』以來、長い沈默と隱忍を餘儀なくさゝれてゐた當時の運動者達が、幾年振りかで初めて深川に『社會主義演說會』を開いたとき、堺、岩佐、大杉等の辯士と共に檢束された十數名の鬪士のうちに、一人熱情に燃ゆる無名の青年があつた。誰も彼の名を知らなかつた。誰も、曾て同志としての彼を見たものはなかつた。冷めたい壁に包まれた留置場の中で、岩佐作太郎氏とこの無名の青年との間に色々な談話が交はされた彼の名は高尾平兵衛、生え拔きの勞働者であつた。

　高尾君はこの時から初めて、社會主義運動の陣營に現はれたのだ。

　高尾君が初めて下獄したのは、足尾に於ける第一回ストライキの時で、この時彼は、原澤、竹內などの同志と共に社會主義の宣傳ビラを撒いて投獄せられた。この入獄前後から、高尾君の運動振りは實に目醒ましいものとなつた。吉田一、吉田順司、久板宇之助等の諸君と共に『勞働者』を起して巣鴨の池上署長の蠻行に對抗しながら、猛烈な戰鬪を開始したのもこの頃からである。

　その後の高尾君の運動の經過、閱歷等に就いては、書けば大變に長くなるので、それは略すことゝして、高尾君その人を識らなかつた人々のために、革命家としての亦『人』としての、高尾君の性格を裏書きするに足る二三の挿話を述べることにする。

　運動者としての彼の態度の中には、やはり九州人特有の、志士的氣持が多分に動いてゐた。米村を襲つた時の彼の態度や、亦、それ以前各所のストライキに於ける彼のやり方を見るならば、彼は實に、不撓不屈の頑强そのものゝやうな男であつた。そして亦、運動者としての高尾君の名のみを聞いてゐたものは、彼が如何に剛直な男であつたかを想像しないではゐられない。その横紙破り的な性格は隨所に表はれてゐるが、殊に、大正十一年の春、數人の同志と共に入露を決行した時、マンチュリアから數十ウェルストの間を徒歩で突破したことなどは、如何にも彼のやり相なことであつて、その面目が躍如と

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

してゐる。

『隨分思ひ切つたことをやる男だなあ！』と云はせると同時に、

『高尾君でなくちや、やれないことさ。』と云はせるやうなことを屢々やつてのけたものであつた。資本主義社會への鬪ひといふことの前には、殆んど手段を選ばずどんなことでもやつてのけるといふ程の一本調子な、熱烈なところがあつた。この高尾君に、然も一面、涓ぐましい程のなごやかな情感があつたことを思ふと、彼の火のやうな……………、決して冷灰のやうな理窟ばかりから生れてゐたのではなく、洵に本質的な實感そのものから出てゐたのであることを考へないではゐられない。

入露を決行した前年極東大會へ出席を志して、同志數名と共にシャンハイへ渡り、或る事情の下に彼一人シャンハイから日本へ引き返へすことになつた時、彼は釜山の旅館で一人の貧しい女が、旅先きで重病にかゝつて、どうにも身動きのとれないやうになつてゐるのを見た。

宿の主人は醫師を迎へてこの氣の毒な女の世話をしてやる代りに、守錢奴そのものゝ冷酷さで宿賃の仕拂ひを迫つた。そして病と貧とに苦しんでゐる女を、更に一層苦しめてゐた。其處へ恰度高尾君が投宿したのだ。（僕は今小說を書いてゐるのではないから、形容詞抜きの事實だけを述べる）

高尾君は女の宿賃を仕拂つてやつた。それから醫藥の世話までしてやつた。女は內地へ歸らうとしてゐるのであつた。女の故鄕は、高尾君の乘る船の着く某港の近在であつた。高尾君は女の切符を買つてやつて共に船に乘つた。船の中でも、女の病氣は重くなりまさつて行く一方であつた。この見も知らぬ旅先の病女に對する高尾君の眞見な看病振りは、船の中の同乘者達全體、乘組員全體をして高尾君に對する尊敬の念を起さしむるに十分であつた。

船は內地の某港に着いた。それと殆んど同時に、遂に女は亡くなつて了つた。港の各新聞は、乘客や乘組員の談話によつて、この無名の青年の行爲を、筆を揃へて激賞した。これより先き、港の警察は、警視廳の命によつて『赤化宣傳者』の內地上陸を『警戒』すべくその船の乘客を取り調べた。そしてやはり何といつても爭そはれないもので、『ケイ眼なる』當局者の狐のやうな猜疑の眼は、高尾君の上に集中された。ところが、面白いことに、そ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れを知つて、一齋に高尾君を辯護したのは船の乘客と新聞記者であつた。この純良な、稀に見る人情に厚い好青年が、『大それた赤化宣傳』をやらかすやうな『恐ろしい人でなし』だとは、同乘客にも新聞記者にも、どうしても承知出來なかつたのだ。さうだ、一般の乘客にとつて『主義者』なんてものには人情なんかゞあつてはならなかつたのだ。主義者なんてものは、全く人でなしのやくざものでなければならなかつたのだ。旅先きで見も知らぬ貧しい女が瀕死の病氣に呻いてゐるのを、親身も及ばぬ程に親切な世話をしてやるやうな稀に見る人情に厚い青年であつてはならなかつたのだ。そこでその逆に、この青年が、恐ろしい人でなしの『主義者』であるといふ御役人様の仰せには、どうしても納得出來なかつたのだ。

かくして高尾君は、自分の行爲が、さういふ思ひもかけない結果を招いたことによつて、無事に船を上陸し、何事もなく歸京することが出來た。

この一事が、その後、當事の高尾君の辯護者であつた同乘客や、新聞記者に『主義者』といふものは御役人様の仰せになるやうな『人でなし』のやくざものではないといふことを考へさせたかどうかそれは知らない。筆者はたゞ、觀方によつてはロマンテイツクに見えるこの一挿話によつて、讀者が高尾君の性格の一面を想察して呉れゝば足りる。

高尾君の運動者としての生涯や、そのやつたことに就いての詳細は、高尾君と共に生前行動を共にしてゐた人々の記事が、他の雜誌にも表はれてゐることであるからこれを省くことにして、彼が米村を襲撃して憤死を遂げた當時の顚末を諸君に知らすため、當時の同行者の一人平岩巖君の手記を左に轉載させて貰ふことにする。猶ほ以上の一文は、戰線同盟の一員であり、故人の友人である某君から聽いた話を書き記したのである。(M・K・T)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

スペインの出來事
先驅者の死

資本家の傭兵たるファシストのめくら滅法な狂態は、本家本元の伊太利だけでなく、今や、無産階級の闘士の存在する處、國の東西大小を問はず、例外なく到る處に於て演ぜられるやうになつた。日本では高尾君がその先陣に斃れた。斯うした犧牲は今後益々その數を增して行くことであらう。僕等は、僕等自身それに對して十分の覺悟を極めてかゝらねばならぬと同時に、僕等の先驅となつて斃れた同志に對して、心からの謝意と好意を表さずにはゐられない。僕は今、高尾君のことを書き終へた所だ。恰度其處へ郵便が來た。葉書や手紙の中に混つて六月號の Senna-cieca Revuo が投り込まれて行つた。何氣なく頁を繰つてみると、此處にも亦、反動團體の手に掛つて無殘にも、然も高尾君と同じやうに頭を射拔かれて斃れた先驅者のことが出てゐた。僕は今その通信を讀者に傳へたい（M・K・T）

本年の三月十日、スペインの勞働運動に於ける最も勇敢な鬪士サルヴトール・セギイは反動團體に屬するもの丶銃彈によつて斃された。ダム〳〵彈が彼の頭の中に突入して破裂した。彼は即死した。

仲間達は、サルヴトール・セギイのことを Noi del Sucre（砂糖の子）といふ綽名で呼び馴れてゐた。彼の一生は、階級闘爭の戰士としての一生であつた。既に十五年前、彼は勞働運動のプロパガンヂストとして働いてゐた。彼はあらゆるストライキに參加して、いつも勇敢に重大な役割を演じてゐた。そしてのべつ別莊へぶち込まれてゐた。然し彼の前には、如何なる迫害も更に無力であつた。迫害が大きければ大きい程、彼の闘ひは猛烈になりまさつて行つた。

セギイは一八八〇年十二月廿三日レリダ（バルセロナの近く）で生れ、間もなく一家と共に、バルセロナへ來た。其處で彼は給工の職を習はされた。常に下積の階級にゐた彼は、自分の屬する階級の苦しみをつぶさに體驗し、そしてその苦しみのよつて來る原因を深く研究した。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

頭の良い男であつた。

彼はその理論に於て、その熱情に於て、無產階級の闘士として申し分のない男であつた。彼は非常な雄辯家であつた。彼の火のやうな熱辯は勞働者を鼓舞し、無產階級をして革命精神に燃え立たしむべく、先天的に賦與されたものであると云つても良い程であつた。彼は亦、一面、冷靜な戰術家であり組織的な運動家であつた。彼は、職業組合を產業組合に聯合させることの重大さと必要さを早くから了解してゐた。さうして彼の熱誠な努力と盡力の結果生れたのが、彼の『カタルナ總聯合』であつた。

スペインの勞働大衆は、悔んでも悔み切れない大きな大きな損失を招いたのだ。私は彼に就いて云ひたいことを餘りに澤山持つてゐる。が彼のことを書き出すと色々な感情が迫つて仲々思ふように書けない。で今は、生前に彼のことを評したガブリエル・アロマール敎授の言葉を引用して、彼の人格を知つて貰ふことにする。

『この腐つた社會狀態を救ふにはどうすれば良いかと訊ねるものがあるなら、默つて唯サルヴトール・セギイを指し示せば良い。そして彼の思想と彼のやつてゐることを一日も早く實現すればいゝ……』

スペイン・ファシストの手によつて斃れた吾等の犧牲者を評する言葉としては、この言葉だけで十分である。

セギイを、俺達の心と記憶の中へいつまでも生かしておかう。俺達は彼の後に附して、彼のやつたことの完成に全力を盡さねばならない。

（ボーレル）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

斬•頭臺の冬　　柳瀬正夢

ギロチン臺は蟲づいて遠く人の來る氣配もあらず黑衣の番人も白骨になりほされた怪鳥はついに化石となつてる。蟲共首をもたげて曰く「世界は泰平だなア」

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

雜感

青野秀吉

有島氏の死は、文壇を中心として、諸方面に、異常な興奮をもたらしてゐる。有島氏の人格の支配力の深かつた點から見て、それは自然なことであるが、有島氏の思想なり生活態度なりを、正しい判斷の下におくことは、から言ふ場合、最も必要である。

僕は、有島氏の思想や、生活態度を、本統のブルジョア・リベラリストの思想、生活態度と見ないわけに行かない。いまの日本の思想界で、ブルジョア・リベラリストらしい言動をする人は決して尠くないが、眞乎のブルジョア・リベラリストと思はれる人は案外に尠い。大山郁夫、長谷川如是閑兩氏などは、眞の意味のブルジョア・リベラリストであると、僕は平生觀察してゐるが、有島氏もその一人に數へざるを得ないのである。

ブルジョア・リベラリズムは、資本主義の發達の、一定の階段において、生れて來る思想である。資本主義が、封建制度の崩壞のあとへ、自然に發達した國では、この思想も自然に生起した。ロバート・オーエンとかスチューアード・ミルとか言つた一群の人々は、そうして生起したブルジョア・リベラリスト中での、聰明なる分子だと言つてよいのである。今日の西歐資本主義國にも、この思想傾向の強く存することは極めて自然である、

ところで日本の資本主義は、封建制度の崩壞のあとに自然の發達をした資本主義ではない封建制度を徹底的に破壞して、その上に打ち樹てた資本主義ではない。維新

革命は、普通にはブルジョア革命だと言はれるが、眞のブルジョア革命たるフランス大革命などに比べると、その內容が非常に異ふのである。封建制度はそれで、徹底的に破壞されたわけではなく、封建思想を支持する社會群を、依然として存續させたのが維新革命である。これは資本主義が自然に發達したのでなく、制度として輸入されたと云ふ事情から考へて、無理もない次第である。

借りものであるとしても兎に角、資本主義制度は封建制度に代る可き歷史的約束を持つた制度である。日本が資本主義化されて行つたことは、借りものである無いとは關係ないことである。しかし資本制度は採用されて行つたが、それが輸入的であつて、自然に發達したものでないと云ふ事情から、資本主義の思想、ブルジョア思想は、純粹なものとしては生起して來なかつた。そこには封建的思想の亡靈が、いつまでも付きまとつてゐた。ブルジョア思想と目されるもののなかにも、封建的思想の殘像が多分に映つてゐるのである。しかも今日に及んでもまだそれが強いのである。

さう言ふわけで、眞のブルジョア・リベラリストも、容易に生れて來なかつたのである。ブルジョア・リベラリストらしい思想や生活態度を持つてゐる分子が自然に增加して來たのは言ふまでもないが、その思想なり生活態度なりに、封建的思想の色彩を殘したリベラリストの多いことは容易に觀取することが出來る。云はゞ洋服に陣羽織、油畫に刀掛けのリスベラリストが多いのである。この頃の所謂反動團體を見ると、この邊の消息が一層明白になると思ふ。

ところで一方、本統のブルジョア・リベラリストも、近年になつて漸く現はれて來た。さきに擧げた諸氏などはその中での批判に富み聰明を有する人々である。しかしまだそれは一個の社會的勢力を爲すまでに到つておらないのは事實である。

有島氏をそう云ふ眞のブルジョア・リベラリストの一人に數へることは、決して氏の價値を低下させる所以ではない。眞摯で正直な思想家であつたことは、そのことによつて何等傷付けられるものではない。

×

七月十六日、野田で開かれた勞働總同盟關東大會は、今後、農民運動、水平運動と常に同一步調の下に戰ふことを決議した。この決議は、わが國の無產階級運動上に

重大な意義を有するものである。これが單に決議に止らず、眞に戰列を一にして戰ふ戰鬪命令であることを信ずる。戰鬪力の集中へ、今日はたゞそれあるのみである。

必然に戰鬪力の分散を導く行動の如きは、ブルジョアの外營以外の何物でもない。

雜讀メモ

M・K・T

小川未明氏『紅雀』

トロツキーの自傳

Romain Rolland: Le temps Viendra

『君も近頃は馬鹿に忙がしいやうだね。僕も忙がしい。ロクに讀書をする暇もない。だがどうも仕方がない。何と理窟をつけて見ても、結局お互ひに、喰ふためにはフンドイ・デ・カピタリストイなんだ、からね。』とこんなことを書いた手紙が、Nから來た。僕はまさか自分を意識した hundo de Kapitalisto だとは思つてゐない。が、事實、やつてゐることはやはりその通りなんだからどうも致し方がない。がよく／＼考へて見ると僕なんかの忙しい所以は、僕が hundo de Kapitalisto であるからではなく、寧ろ besto pro mangi であるからだといふことが分る。が斯ういふことをいふのは、必ずしも僕の本質的な『なまけ癖』をジャスティファイしようとするからではない。本も讀みたいが仲々泌々と讀んでゐられない。そこで忙忽の間に素讀したもの丶うちから、興味を惹ひたものだけ自分の頭を整理しておく意味に於て、このメモを書きつける。

●●

未明氏から近著童話集『紅雀』を贈られたので早速讀んで見た。以前から雜誌に出る氏の童話を讀んで、氏だけの持ち得るミスティックな詩の世界に親しんでゐた僕は此處でも亦、如何にも小川未明らしい小川未明に出會つて、何とも云へない懷しさを覺えた。空想の中に浮び出

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た未明氏の姿、テングーな童話の美と詩の中に丸彫りにされてゐる未明氏の姿、ミスティックな世界に浮び出る氏の姿が、不思議な程、現實の世界の未明氏とぴつたり合つてゐる。がこれは決して不思議ではない。これは寧ろ『藝術家未明』『俗人未明』といふやうな切り放しの藝當を演じるやうなウソの出來ない未明氏であることを證明してゐるのだ。

未明氏の持つミスティックな世界は然し、その空想の翼が如何に伸びようとも、ホフマンや、ワイルドや、また佐藤春夫氏などの持つ世界とは全く違つたものであるそれは、深い森の中にある古沼の、靜かな濁つた水の面に、無言の牛を吸呼してゐる唖蓮を見詰めるやうな世界である。さうした一本の弱々しい唖蓮の中にも、如何に生命に對する熱愛が匿されてゐるかを觀ないではゐられない世界である。謂ひ得べくんば、生命の熱愛に對する感激が、氏のあらゆる童話の基調をなしてゐるのである。が玆に見逃してはならないのは、氏の童話に附き纒ふ宿命觀的なニュアンスである。生命を熱愛するが故に共處から生ずる氏の感激は、生命の敵に對する鋭い憤りとなる。然もその憤りが、やゝもすると泪ぐましい嘆きに代らうとする傾向を生ずるのは、實に氏の宿命觀的な一面の結果でなければならない。『紅雀』に收められた十三篇の童話には、その殆んど全てを通じて、この傾向が表はれてゐる。この十三篇の童話は、みなそれ〴〵に如上の色々な要素を含んであるが、僕はそれ等のものゝ中で、『石をのせた車』が一番好きである。他の十二篇の童話に對しては、それ〴〵、多少の不滿や注文を云はせて貰ひたいところもあるが、この『石をのせた車』一篇に對しては、僕は少しの不滿も注文も持つことが出來ない。この童話こそは、『紅雀』一卷の白眉であると共に、ほんとに新しい時代、來るべき時代の童話であると思ふ。童話作者としての未明氏が、今度こうした方面へ進んで行かれることを僕は希望する。曾て山川亮君は、未明氏に對して、『詩』の世界から一日も早く脫却して貰ひたいと注文してゐたことがあるが、僕は決してそんな注文はしない。序ながら玆で一言云つておきたいのは、たとへプロレタリア作家のものと雖、詩のない所に藝術はあり得ないと云ふことだ。このことに就いては、僕はいづれ他の機會で、僕の考へ方を詳しく說明したいと思つてゐる

最後に僕は、僕のこの短い抽象的感想を讀んで吳れたも

のに、是非『紅雀』一巻を讀むことをすゝめる。『石をのせた車』一篇は、確かに諸君の期待に叛かないものだと思ふから。本は定價壹圓八拾錢、牛込區南榎町集成社發行である。

『倫理講演集』七月號が來た。本欄の目次を見ると讀みたいと思ふものが一つもない。が『泰西思潮』といふ欄に一つ、『トロツキーの自傳略』といふのがあつたのでその頁を開けて見る。一息に讀んで了つた。(短いものではあるが)ミラノの社會主義新聞 Avanti の三月三日號に掲載されたのだといふ傍註が先づ、皮肉な感じを與へるフアスシスチーの本場、ムソリニ內閣、社會主義新聞、トロツキーの自傳……斯う聯想を働かして見たゞけでも器用な人間なら、忽ち皮肉な痛快な洒落の一つも出すところであらうが、生憎鈍根平凡な僕には、そんな藝當も出來ない。唯『皮肉だなあ。』と思ふだけである。

『入獄、脫走、追放、逃亡の自叙傳』といふ題をつけても良い程、この自傳はそれ等のものゝ連續である。恰度これを讀み終つたところへ、ひよつこりM君が訪ねて來たので、僕は、『君、トロツキーつて人は脫走と逃亡の天才だね。』と云つたものだが、この自傳を通して見たトロツキーの性格は、精神そのものと云ふやうなところがあつて、幾年もの間、シベリアで默々と勉强してゐたレーニンの性格とは、かなり違つたところがあるやうに思はれた。少しあつけないくらい簡單すぎるものではある。それでもこの短い自傳は、僕が最近讀んだものゝうちで一番興味を惹ひたものゝ一つだ。一八九八年一月、十九歳の時始めてニコラエフの獄に投ぜられて以來、一九一七年七月、ケレンスキーによつて捕縛されるに致るまでの革命家としての寸時も無駄に費やさない活動が簡單に書かれてゐる。僕は今、この自傳を通して見たトロツキーの性格が精悍そのものゝやうだと云つたが、この男が曾て『種蒔き社』で譯したやうなテンダーな泪ぐましい小說を書いたのかと思ふと不思議な氣もした。然し、よく讀んで見ると、彼の性格の一面には、確かにさういふ物柔かな優味が溢れてゐるのだ。一九〇三年十二月、ペトログラードの自由經濟會でソヴィエットの全員が捕縛され、シベリアへ終身追放の判決を下されてから、三年間を獄中で暮し、愈々一九〇六年二月、東部シベリアのオブドルスクへ送られることになつて出發した時、彼はうまく計略を設けて脫走した。その時のことを彼は、『ベン

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ツォフよりウラル山脈まで白雪の廣野を橇を驅りつゝ遁走した此時の經驗は、私の生涯中の最も美はしき思ひ出の一つとなつた。』と云つてゐる。この一文によつても、彼の人間としてのゆたかな溫い情感を覗ひ知ることが出來よう。彼が初めてマルクス主義の理論的見地を採用するやうになつたのは、初めてシベリヤへ流刑に處せられた時の獄中に於てゞあつたが、一九〇二年の革命騷ぎの時、『トロツキー』といふ署名のある僞造旅行劵を持つて遁走し、然もそれ以來、この偶然手に入れた旅劵の署名を自分の本名にして了つたなどば、別にどうといふ譯はないが、官憲の目をくゞつて革命運動に盡瘁してゐた彼の面目が分つて色々な感慨を湧かされる。(因みにトロツキーの少年時代の本名である)

ロマン・ロオランの Le temps viendra『時來らん』を讀んだ。前から名前だけは聞いてゐたのだが、讀んだのは今度が初めてだ。三幕物の長篇ドラマである。これは一九〇二年の作で、英軍のアフリカ侵入を材にした非戰思想の劇である。色々な方面から見て、僕はこの作の方を彼が大戰後に書いた非戰思想の小說『クレランボオ』よりも意味の深いものだと思ふ。彼の戰爭に對する憎惡が、單に戰爭そのものに對する憎惡としてゞはなく、戰爭を惹き起さねばならない『文明』に對する哲學的な考察の餘映として表はされてゐる。が然もそれは單なる『考察』や『批評』や『解剖』ではない。作者の熱が、作者の憤りが、それ等の客觀的冷たさを破つて、『文明』――殊にヨーロツパの國家主義、軍國主義を基礎とした『文明』に對する眞劍な挑戰にまで進んでる。そこに、『形而上の思想としての思想』のみを述べやうとする『思想家』でない彼の生命がある。然しながら、バルビユスの『クラルテ』とこれを比較して考へて見ると、僕はやはり、飽くまでも『自由』の選手であるロオランの態度に、一脈の不滿を感じないではゐられない。けれども、さういふことを離れて見るならば、その深さに於て、そのドラマチストとしての技倆に於て、凡くら批評家の駄評を超越するものであることは斷言出來る。筆者の親友佐々木孝丸が、近く『ロマン・ローラン戲曲集』を出す相だから、その時は勿論この戲曲も譯されることだらうと思ふ。今から期待しておく。(終)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

井東君の「地獄の出來事」

佐野袈裟美

井東憲君の「地獄の出來事」は、近來讀み堪へのした小說の一つである。この世の地獄といはれる遊廓に於ける遊女の呪はしい生活が深刻に描き出されてゐる。それは表面的に見た單なる描寫ではない。一つ一つの描寫の端にも作者の主觀が色濃く織り込まれてゐる。遊女の悲慘な呪はしい生活を描きながらも、さうした生活に陷つて來た徑路をつき詰めて辿つて行くことを忘れない。その蔭には、田舍の小作人の悲慘な生活がしのばれる。

かく作者は鋭いメスを深く突き込んで、現代の社會制度の缺陷から、あらゆる呪はしい痛ましい人間の生活が生れて來るものであるといふことを、赤裸々に發き立てゝ行くところに、これ迄のブルジョア作家に見られない新しい特色がある。これ迄の自然主義の作家にしても、人道主義の作家にしても、皆皮相な見方をしてゐたことが、この作を讀む人々には氣づかれることであらうと思ふ。今迄の日本の多くの作家は、個々人の生活を丹念に描き出すことに於て、すぐれた才能を示しはしたが、その社會的背景を描くことを全く閑却してゐた。今迄の作家のメスは人間生活の表面を薄くはいで行つただけに止まつてゐた。然るにこの作家のメスは深く々々と切り下げて行く。ザクリと深く突き込んで、グイと剔り出して行く手腕はなか〳〵冴えたものである。

時には作者の主觀を、作中の人物に餘りに押し付けてゐはしないかと思はれる節もあるが、然しそれは新しい試みとして許されなければならない。プロレタリア的な意識から生れた徹底した文明批評をもつて、常にこの作者はあらゆる事件を取り扱つて行くことを忘れないでゐる。其處にこの作の眞生命がある。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社會の下積みになつて悲慘な生活をつゞけてゐる人々の心の中に、如何にいたましい呪ひと憤りと怨みと歎きとが疊み込まれてゐるかが分る。作者は反逆的な心を、叩きつけるやうに盛り上げて行く。時には作者が餘りに生一本にメスを振ふので單調に思はれるところがないではない。だが、それだけ深くメスがえぐり込まれてゐることも確だ。

個々の人物については、第三部の中の音枝が一番よく落ち付きある筆で描かれてゐるやうだ。兎に角、ムダのない簡潔な文章で、小氣味よく運んで行くところに、新鮮な味ひがある。そして所々に生々とした新しい表現の技巧が光つてゐる。例へば、『限りない執念深さが、ムシムシと岩蟹のやうに頭の中を匍ひ廻つた。』とか、また、『心太郎は、海豚のやうに笑はなかつた。』などは、なか〳〵面白い言ひ方である。

この小說は確かにプロレタリア文藝として傑れた收穫の一つとして數へることが出來ると思ふ。たゞ作者に望むことは、更にもつと細かく廣く觀察を行きわたらせて行くことである。

「鎖」

小牧近江

叛逆のないところに何の詩があるか
强烈なる意志とその鬪爭と——
われらはただ全世界を欲するのみだ

『これが、その宣言の一節だ。

六月を以て創刊號を出した「鎖」は、かういふ雜誌には、とかく期日の不定であるものであるに不拘らず、約束の期日通りに第一卷第二號を出したことの運びにいたつたことを嬉ぶ。

巻頭村松正俊の『生活』がある。正俊君とはこの頃めつたに會はない。心でゆつくり會つて話したいと思ひつつ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たまに會へば雜誌とか、何んとか、あはただしい話題に追はれて自分たちの話を落ちついて話する暇さへない。まして、昔のやうに、歩きながら藝術とか、主義とかの他に個々の生活やその他多少なりとのんびりする話をすることは絕對にないといつていい。

おれは毎晩銀座へ出る。おれの求めるものはおれの夜だ
おれは快樂に飢えた。おれは慰めを求めるおれの生涯は費された。その限りない悔恨！ 戀もなく、動亂もなく、また平和もないわが青春！
おれは逐はれた犬のやうに銀座を歩く
孤獨の散歩は思想のうめきだ。おれの頭は攪亂した
おれの眼を過ぎるものは生活の迹、人間のこと
だがおれはニイチエを信ずる、この衆愚を脱せよと

が、村松君は常にさびしい。

さびしさに身にせまる、語る友もなく
手をあげて呼べば女が來る！ 酒を！

が、これは遂に村松君の生活ではない。

『生活』三ツのソネの中で僕の胸を一番打つものは次ぎの貴重な一句だ。

靜かに頭を上げれば、群集の中のただ一人！

ここに詩人村松正俊その人を發見する。正俊君は他の摸倣の出來ないユナニミストだと思つた。

重廣虎雄君、君ははじめ興奮しまいとする。だが、重廣君は正直だ。人を冷靜にしやうとし、自分が冷靜にならうとし、それでて結局かツと燃える。

鶴巻盛一君、

馬車馬——巨大な枠の馬車馬だ——
こいつは盲目で聾者である
いつたい。どこへひつぱつていくんだ
どこへ？

いい句だ。そこへらで打切にされたらどうだつたらう
そういふ注文は酷かも知れない。それや誰だつてああなると『枠をぶちこわしたくなる』。その最後の一句を詩人にいはせまいとすることは確かに無理な注文かも知れない。だが、刀も抜きつぱなしにするより、いざこれから抜かうとするところにまた反つて意氣組があるものと思

ふ。

陀田勘助君

ぐんぐん押しつめて行くところはいつもの君だ。手を差延べるためまでの説明が、ややくど過ぎやしないかと思つたが、

無數の俺らの手を差延べて倉庫に積まれた食料品を握らう

といふくくりが感心させた。それもそうであるが君に願ふところは、話は異ふが、とかく、かういふ雜誌の經營は困難なものである。切角努力されて立派な九月號を見せてもらひたい。

山根政義君、ジョルジエ●デュアメルとオクタヴ●ミルボーを紹介されてゐる。この次ぎには是非マルチネの詩でも紹介してもらひたいものだ。

細井和喜藏君、初めての詩だそうであるが感心した。一寸君一流の小唄のやうな流れもあるが、かもうもんかどしどしやつてもらひたい。

松本淳三君、

津田光造君お特意の『ない節』ではないが、『松本淳三詩を書かない』といひたいところだが、桑田克己、三輪猛雄の兩君を紹介されたことで帳消とし、この次ぎにはきつと君の詩を待つてゐる。

重廣君は『赤と黑』を許してゐるが、切角待つてゐた第五輯が締切の今日まで手に入らなかつたことは殘念だ。

岡本、川崎、壺井、林の諸君に對してそれぞれ感ずるところがあるが、詩としてはこれまで萩原君のものが一番好きだつた。

ある感想

「假想者の戀」を讀む

山川　亮

宮島資夫君の『假想者の戀』が、いま朝日に出てゐる。まだ今日で八回しか出てゐないから、これからどうなるのか知らないが、宮島君の作品は、決して筋の面白さで讀ませるやうな種類の小說ではないから、玆で一寸一言しても別に差支へないと思ふ。

宮島君ほど、いい作品を書いてゐながら、その作品の價値を價値相當に認められてゐない人は、文壇にあまり例がないと思ふ。この春の新興文學のにしろ、世間の評判はよくなかつた。しかし、僕は現在の文壇で、誰があれだけのものを書くことが出來るか、と詰問したい。とにかくも、僕は宮島君があの作中に披瀝した苦悶に、かなり深くうたれた。僕は少しセンチメンタルになつて、淚さへ浮べた。昨秋、麻生氏の『濁流に泳ぐ』と、時を同ふして、宮島君の『裸像彫刻』第一卷がでた。僕は『濁流に泳ぐ』も『裸像彫刻』も一緒に讀んだ。そして『裸像彫刻』のなかの、少年の純眞な魂のうごきに、僕は自分の少年時代の、不誠實な、豪慢で痺怯であつた心を較べ合せて、一人ひそかに恥かしい思ひをした。僕は『裸像彫刻』の第二卷が、少しも早く出るやうにと期待してゐたこれは、いま大阪で解放運動をやつてゐるWとも話合つたことだつた。しかるに『濁流に泳ぐ』は數版を重ねてるのに、『裸像彫刻』の第二卷は、未だに出版されない。僕は失望した。何故、出ないのか。それはかうだ、簡單だ。

世間の奴等は、どいつもこいつも、大馬鹿野郞だからだ。そして出版やは、皆、輕薄な奴だからだ。『濁流に泳ぐ』が數版を重ねても、『裸像彫刻』は、恐らく初版ぎりなのではないか。

僕はアナキストだから、ボリセビキだからと云ふので作品の上にまで、それを持ち出して、いい作品でも態とケナシつけるやうなことをするのは厭だ。僕と宮島君とは、友人とは云へない程度の關係しかない。しかし、『坑夫』以來、僕はなるたけ注意して、宮島君の作を讀んで來た。何故と云つて、好きだからだ。大抵の日本の小說は讀むのが面倒だし、第一、新聞記者や何かを長い間して、貧乏な生活をしたり、だらしのない生活をして來たので、他人の小說なんか讀む氣がしないし、また讀んでもゐなかつた。いまでも餘り讀まないがそのなかで、宮島君の作にだけは、妙に誘惑を感じた。そして讀んだ後で、決して損をしたとは思はなかつた。僕はこれでい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いのだ。僕は批評家でもなければ、藝術家だとも思つてはゐない。だから、僕は小説を讀んで、それに依つて、自分の腐りかける魂が、瞬間的にでもいいから、パッと眼をさまして、反省してくれればいいと思つてゐる。出駄雜目な、空元氣のよいプロレタリア作家の、鍍金のプロレタリア作品ばかりが、バッコする世の中に、宮島君の作だけが、しみじみとした氣持を僕に與へてくれる。いつかの報知の『灯ともし頃』なんか、現在のごろごろしたプロ作品のなかで、唯一つ光つてゐる星ではないか。それを世間のものどもは、發見する眼を持たない悲しさには、見遁がして終つたのだ。

『假想者の戀』にしても、さうだ。僕はこの作品を、新興文學の掲載の作品の延長?と見てゐるが、何の苦もなく、自分を突放してゐるやうな書き振りをしてゐても、僕はそこに作者の身を切るやうな苦悶を感ずる。同時に僕の胸のなかにも、苦しい感情が動く。藝術は魂から魂に、とそれで全部ではないか。技巧や文字は、そもそも末の末の遊戯だ。小川未明氏を、よくまあ生命がながい――と云つた文藝春秋の徒の淺薄さが、幅を利かす世の中に、宮島君の作品は、恐らくドストイエフスキイが生存中母國の文壇から顧みられずして、當時の流行文士ガトコフが露文壇でノサバリ返つたのと同様だらう。宮島君は、いま確かに、ある轉機に立つてゐる。思想上にも藝術上にも、また行動の上に於ても。從來の宮島君が今後どう變つて行くかは、僕は斷言できない。しかし、唯これだけは云つていいだらうと思ふ。宮島君がどう變るにしても、自らぐうたらだと云つてゐる宮島君こそは、眞に命懸けの仕事をなし得る人だ、と。或はもう宮島君の心は、既に決つてゐるのかも知れない。いい加減に物をごまかして置く程に、良心の痲痺した人ではないから。

しかし、それは僕のやうな愚者には判らん。唯、『假想者の戀』を熱心に讀んでゐる。そして毎日それに依つて自分自身の心を、鞭打ち勵ましてゐる。(七月二日)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

過去から

氷乃樹六郎

○治警違反とスパイ奬勵

定

何事によらず、よろしからざる事に百姓大勢申合ふをとたうとゝなへ、とたうしてしひて願事企つるを、がうそといふ、あるひは申合せ村方立退候を、てうこんと申前々より御法度に候條、右類の儀是あらば、居村他村に限らず、早々其筋の役所へ申出べし、御ほうびとして

とたうの訴人　銀百枚
がうその訴人　同斷
てうさんの訴人　同斷

右之通被下、その上品により帶刀苗字も御免あるべき間たとへ一旦同類に成とも、發言致し候者は各主へ申出においては、其科をゆるされ御ほうび下さるべし(下略)

明和七年四月　奉行(聞傳叢書)

○秘密結社

一　何事によらず誓約をなし徒黨をむすぶべからざる事

右條々不相守之、若於相背は可被行罪科もの也

奉行(地方落穗集追加)

○其筋と飛道具

百姓徒黨逃散御書付

上方筋百姓共致强訴相集候趣相聞候間、可成丈取鎭め、共上難取鎭樣子に候はば召捕可申候、(中略)併飛道具等用候儀は可爲無用候

右之通相達候間、御代官へも可被申渡候

明曆五年正月　(聞傳叢書)

○是丈けは心得置くべし(絶版)

(兵制新書)奇之卷一

治ヨリ亂に入古今ノ形勢、並氣運ノ論略
一揆將起時、豫メ其源ヲ防ベキ心得
同、既起テ未及大勢時取計ノ心得
同時大砲火器佛良機等ノ長器ヲ備テ、豫メ要地ヲ固メ先其機ヲ挫クベキ取計附玉藥等園の心得
一揆漸大ニ起リ、城下或ハ御代官所ナドヲ襲ハムトスル時防ベキノ心得、附他國隣村ニ起リ、或ハ我國內ヲ押通リ、又ハ城邑等ニ廻ル時ノ取計防禦警備、附我國民ニ敎諭ノ心得
一揆勢ト對向シテ告諭ノ心得、附御方備立ニ心得有べ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

キ事
敵御方川ヲ隔テ相對シタル時ノ備立、附告諭ノ使者川ヲ渡テ一揆ニ向フ時ノ心得、並告諭言語ノ事緊要箇條ノ事
一揆方糧食ノ源ヲ取計、附御方兵糧兵器用意、隣國急リ變ヲ告ル時ハ豫メ自國ノ百姓町人ニ告諭、並自國取締リ方、並城下締リノ心得
同巻ニ
一揆勢ヲ討伐スベキ戰法ノ大略、附本域用意内外糧秣等、攻守トモ大炮火術ヲ可用心得、並野戰備立、附討戰格法
內間ヲ用テ其心ヲ離タシムベキ手段、前後ニ有ベキ事
略
略
一揆勢ノ出タル跡ニ殘居ル妻子老少等ニ、其言ヲ説キテ呼返サセ、或ハ間牒ヲ行ベキ手段
一揆籠域ノ時可攻之心得、附平定ノ後其首冠張本ヲ嚴刑シテ、自余ヲ宥免スル手段ニ三重ノ工夫アルベキ事
一揆方ニ我ニ內應ノ者等アリテ忠節アラバ、重賞ヲ以テ登庸シテ、以後々々百姓ノ心ヲ引ベキ手段ノ事

兵制新書の蓄者を岡熊臣と云ひ、石見の人、家代々富長上八幡宮の神官たり。えらい神官もあつたもの也。是丈け心得置けばよもや一揆に敗ることもあるまじ、然るを如何したりけむ、『奇之巻五本』は『事多く忌諱に亙るを以、生前には絶て他に示すことを許さず、秘して嚢中に存す』とあれば、今日ならば內務省あたりの『極秘』ものか。さるにしても惜しき極みなり。されど當代の『其筋』は今更『奇之巻』を必要とする程究稚なるものに非ず米騷動を見よ、メーデーを見よ。

『敵御方川ヲ隔テ相對シタル時』は奈良水平社と國粹會との一戰か。

『內間ヲ用テ其心ヲ離タシムベキ手段』はいと明瞭なるべし。

『殘居ル妻子老少等ニ其言ヲ説ク』位は屁でもなし。

『我ニ內應ノ者等アリテ忠節アラバ』たか〴〵吉原にて一夜を天國に遊ぶ位の『重賞』にて足るべし。

さるにしても當時（第十九世紀中葉）如何に百姓一揆の勢猛烈を極め、『其筋』の苦心大なりしかはこの『奇之巻』の目次を以てしても明かならん。『其筋』の新しき『奇之巻』や『一揆方』の新しき『奇之巻』が今後續々出でん。書肆に告ぐ、『是丈けは心得置くべし』にもう二篇を追加されんことを。（社會葬の前夜）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

故有島武郎氏

——昨年八月秋田に於て——

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

有島武郎氏の追憶

弔辭

大きな人格の光芒を曳いて、有島氏は突如、思想界及び文藝界から、永久の暗の彼方に沒した。それはまつたく驚愕である。

よしその死が、有島氏個人を最後の榮光の坐に導いたものであらうとも、いま一歩、プロレタリヤ運動に踏み出してくれなかつた無念さは、はかり知れない。

『宣言一つ』を發表して以來、有産智識階級にあたへた波動はどんなに大きかつたか。

文壇の空氣を現實に引下して、ブルジョア作家の心理に混亂の石を投じ、プロレタリヤ文藝運動に、それとなく光明の示唆をあたへた。

氏は、身自らブルジョアの末路そのものとして、悲劇の罠をつくつた。

ブルジョアの一人として、氏くらゐ正直に、崩壞の途上に於ける自己を直視した人は少ないであらう。

氏の惱みはつねに死を賭してゐた。それだけつねに死に面接してゐた。現實に於て、『自己をごまかすまい』とすれば、死に面接するよりほか仕方がなかつたのであらう。而し、願くば氏が、その否定の心境から、最う一歩勇敢に、肯定へ進んで欲しかつた。而し、それも言ふてかへらぬことである。

とにかく、氏の思想開拓は、つねに戰ひそのものであつた。殉教者の戰ひそのものであつた。それは全人格的であつた。

僕達の學ぶべきは此の點に存ずる。

僕達は、僕達の眞理と目標のために、全人格的に戰ふことを、有島氏に依つて敎へられる。

有島氏は僕達(種蒔く人)の運動に對して正しき理解者であつた。そして種蒔く人を今日あらしむる、援助者であつたことを僕達は忘れられない。

僕達は今、此の機會に於て故き氏に厚い感謝を表し、深い悲しみを持つて氏を弔ふものである。

七月九日　種蒔き社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

故き有島先生と自分

今野賢三

七月八日――高尾平兵衞の社會葬の當日の朝、寢床のなかで朝日新聞を手にして、有島先生情死の記事を讀んだ、私は、或る非常な力で突きうごかされたやうな、眼のくら〳〵するほどの打擊を感じた。そして讀賣新聞に記事がないので、幾らか胸を撫で下すことが出來た。しかし、半信半疑のたゝかひはなか〳〵に胸から去らない時間は移る。高尾の葬式に行かねばならない。とりあへず、有島邸を見舞つて見たら樣子がわかると思つた。

玄關に立つた。すべてが明瞭である。名刺をさし出しながら、一言、二言挨拶した自分の語尾がかすれた。口のうちで微に言つたやうな氣がした。取次の人がわかつてもわからなくても、言葉が思ふやうにほぐれなかつたのだ。

『やつぱり事實だつた』一緒に行つた若い友達に囁いた

藤森成吉氏と出會つた。妙に上づいた笑ひを交して、なんにも言えない氣持を無言で通はせ合つた。

電車の中でも、先生の死――であたまのなかゞいつぱいになつてゐた。『母の死んだ時よりおれは打擊を受けてゐるんぢやないか？』といふ氣がした。電車の中で山川君の顏を見た。私は自分のむづかしい表情を崩すことが出來なかつた。

――青山葬場で弔辭を讀んだ時、朝からの感情の激動で身體がぶる〳〵と震えた。

まつたく時代の反映である。高尾氏の勇敢な死と、有島先生の、亡びゆくブルジョアの末路を見せたやうな死とぶつかつたのである。

私は高尾氏の死を考へると滿身の血が湧くを覺える。有島先生の死には、何とも言えないものゝ哀れさに淚ぐましくなる。

先生と私との文通が大正八年七月にはじまつたのである。當時私は秋田の、能代港にゐたのである。

映畫說明者だつた私が、思想上の或る懷疑に逢着して斷然、職業を捨て家庭を捨てゝ、複雜した人生の解決のために、長篇の創作を企てた。その時、たゞ文通だけで、私の僞りのない心持を、そのまゝ眞實として、汲み取つてくれたのは先生である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私の周圍に澤山の友はゐた。しかし、私の人生熱愛からどんな偉狀な覺悟と信念を持つて一切を捨てたかといふことは殆ど理解を得られなかつた。

わづかな文通で、先生の眞實を見る眼に、私の貧しい姿が投映した。

かうして先生は、遠き過去に、私をして小說を書かせる動機をつくつてくれた。

私はあくまでも自分の力で、自分の思想、及び自分の生きる世界を開拓して來たといふ點に於ては、心ひそかに微笑を湛へてゐるものであるが、私の胸裡に、或る一點の光りをなげつけてくれたといふ點に於て、その人格を純情に打たれて來た點に於て、先生に負ふところは實に少くないことを感ずる。

生れて三十一年――被征服者の標本を數へて、感傷の淚に溺れてゐた青春期から、階級鬪爭に猛然と眼醒めて來た最近、自分の魂は一眼ふれたゞけでも、眞實の接觸を感じ得られるやうな光りを求めて來た。それは先生に依つて投げつけられた。またわれ〳〵の階級鬪爭の同志に依つて投げつけられた。

今ぞ、同志の眞實に光りがある。

昨年の五六月頃である。先生を時々訪ねた。一日、『星座』の批評を眞面目に求められたともあつた。そしてかなり亂暴だつた卒直な自分の言葉を、信賴をこめて聽いてくれた。一日、また、種蒔きの經濟の困難に打ひしがれ疲れ切つた心持で、先生の面前にあらはれた時、自分を慰めるやうに、蓄音機で、外國の音樂を聽かしてくれたりした。さうした時、なんとなく貴族の邸宅になげ出されたやうな、ぎごちない、憂鬱な氣持に閉ざゝれながらそれでも父にあまえる子供のやうな安らかな氣持になつたことを覺えてゐる。

――昨年の夏、私たちは秋田に歸省してゐて、文藝講演に先生を迎へた。

秋田の紀念會館で、先生の講演の最後に、ロシヤ飢饉救濟の話をしてもらつて、入口で金子洋文君と、帽子を差出して聽衆から寄附を求めた。そして、歸らうとする先生の面前で、たくさんの金を、小躍りする小兒のやうに喜んでかぞへてゐた時、先生はだまつて、凝つと私たちを見下した。

その眼がまざ〳〵と見える……。

歸京しようといふ時であつた。秋田驛で先生を見送り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ながら、上野行きと同時に發車する汽車に乘り込んで、車窓からかなりへだてゝ先生と相對した。先生もたくさんの見送り人を前にして車窓から顏を出してゐた。當時の私は、非常に緊張してゐて、互ひに戰士として別れるやうな昂奮を感じてゐた。二等車のなかの先生と、三等車から首をさしのべた私と――。

私の方が反對の方向へさきにうごき出した。私は帽子を振つた。『左樣なら』をくりかへした。先生も帽子を振つた。先生は自分の眼の前に群がつてゐる見送りのほかの人々を殆ど忘れてしまつたやうに私を注視しながら帽子を振つた。上野行もうごき出した。二つの列車は右と左へ……。

感激は、相互の姿が見えなくなるまで通ひ合つた。その時の先生の姿、その時の、先生に對する私のなつかしさ……。

そして右と左へ別れて以來『東京でお目にかゝりませう』と言つておきながら、歸京以來、その時から今日に至るまで、同じ東京にゐながら、何時でもお目にかゝれるといふ氣持から、一度もお訪ねをしなかつたのだ。あゝして停車場で右と左りに別れた。それは、今の思ひ出でとしては、死と生の分岐點となつたのである。右と左りへ！そして先生は此世から旅立つてしまつたのである。

『何故、最近に一度お訪ねをしなかつたのか』かうして悔て見ても、今更自分を責めて見ても最早及ばないところである。

私は二月號の此の種蒔く人で、『酒狂』に對する感想でかう言つた。

『有島氏は死を賭して自己の生活に徹しようとする。それは痛ましいことだ。悲劇的だが、有島氏の行動も、言說も徹底的になればなるほど、大多數の讀者に何等かを投げつけずにおかない。その意味から有島氏の言動がます／＼徹底的であり、悲劇的であることを希はずにゐられない。悲劇的であることを希ふのは殘酷ではあるけれども、私にとつては非常に愛の言葉で、それでこそ、氏の藝術はます／＼光りを放つであらう。』

――果して、先生の今回の死は、私の求めた悲劇的であり、徹底的であつたか？　の此の點には非常な遺憾がある。先生を個人主義的立場から見れば、今回の死は徹底的に違ひない。しかし、私の求めたのはさうではなかつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。先生が悲劇的であることに依つて、あくまでも思想界の明星であり、生活革命への、示唆であり、『民衆の全力』への移入へ一歩すゝめてくれることであつた。その自己のぶちこはしから、新な建設と、光明へむかつての自己肯定へすゝんでほしかつた。そのためには目前の障害を突破してゆく、今少し、力がほしかつた。殘念でならない。まつたく殘念でならない。しかし、私は、先生の神の如き純情を充分に認めはする。そしてあたまを下げる。涙ぐむ。その、いはゆる善良が、死へまで行く強さであり、運命に打ち敗けた弱さであることを、あきらかに認めはする。

が、とにかく、私にとつては、あらゆる意味に於て、此の世から明星を失つたやうな悲しみを何ともされない。それは、私達の運動に或る損失であることをハッキリと感じられるからしてなほ悲しみが深いのである。

しかし先生の死を悲しむのは最う止めよう。

そして、高尾平兵衞の死に、自分の心持を集中しよう戰ひのために……。（七、十二）

最後の印象

小牧近江

あまりに突然な死である。あまりに正直だつた。何故死んでくれたかといふ悲しさより頭にない。

種蒔きには最初から盡してくれた。强請的にされては困るが、そうでない限り書きませう。そういふ手紙をまだ雜誌が出ぬ前送つてくれた。それから、どれだけ我らのために力を入れてくれたか。わけて三月八日のあの熱誠、――それはいつかいひたい、今はあまりに悲しい憶出だ――昨日も、そのことで、靑野季吉君とふたりで話し合つたとき、胸の底から泪が出た。

有島さんが柳瀨正夢君をカットでは第一人者だと賞められてゐることは知つてゐるが、四月末足助氏の病室で會つた時、有島氏は佐々木孝丸君に、

――土藏劇場の先驅座を見ましたが、佐々木君はまつたく天才ですね。

とほめた。さすがの孝丸もまつかだつた。

それから、僕に、
――『種蒔き少年』は出ますか。『小さきロシアの同志』の方はどうなつてゐますか。
と問はれた。有島武郎氏は讀者の知らるる通り、秋田雨雀氏とともにわが社のロシア兒童救濟の會計監督であつたのと、深く少年少女の運動に興味をもつて居られた『種蒔く人』六月號の附録として發表した少年版の敏行、行三兩君の『いいおへや』と、『今晩の空』はかなしくも亡き父君なる有島武郎氏がわざわざ係に送つて來たものだつた。此袋に、あの達筆で有島敏行、行三と代筆せられてゐるのを見るだけでも今は泪ぐましい。有島さん、『種蒔き少年』も、『兒童救濟』もきつとやつてお目にかけます。みんなの力で。

思ひ出せば五月七日佛教會館の『クラルテ』出版紀念講演會が最後の印象だつた。有島さんは、急ぐからといつて眞最初に演壇に起たれた。そして、演壇から降りるや否や、逃げるやうにしてすがたを消した。その夜の最後の言葉に、
――今野賢三君は？
今野賢三君、君はプロレタリアの出であり、心からの味方である他に、君の藝術的生命の有島武郎氏に負ふところが多い。君の責任は重大だ。力を落すところではない。しつかりやつてくれ。（告別の日に）

有島さんのこと

佐々木孝丸

有島さんが自殺した！
前からの時々の話しや、最近の氏のものを見て、氏の自殺は當り前のことをやられたやうな氣もするが、それよりもやつぱり『死んだとは思へない』氣持の方が多い今でも僕は夢みたいな氣がして仕様がない。
『印象』といふやうなものを、僕等、有島さんを知つてゐたものだけで、本誌に書くことになつてゐたのだが、僕は、あまりに色々な思ひ出やら印象やらがごつちやになつて湧き出て來るので、迚も書けない。何遍も書きかけて見たが駄目だ。たゞ僕が云つておきたいのは、また云ひ得るのは、有島さんは、如何なる場合にも、絶對に自分の氣持ちをあやふやにごまかすことの出來ない人で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あつた。どんな場合にも、どんなことにも、最後まで氣持ちを（氣持ちといふ言葉で現はすのはどうも不完全だが）突き詰めないではゐられない人であつた。『眞面目』といふ言葉が持ち得る限りの眞劍な意味に於ての『眞面目』な人であつた。『眞面目であるが故に死なねばならない社會！』そんな不合理なことがあらうか？然しそれが事實なんだ。斯う云ふ死に對して、新聞や何かで、ロク〲氏自身の氣持ちや、哲學を知りもしないで、高慢相な、お座なりな『批評』を下して得々としてゐる連中に對しては僕は限りない憤りを感じる。

僕としては、何と云つても、も少し生きてゐて貰ひたい人であつた。『これからこそ！』と云ふ期待が、氏が四谷へ家を借られた時から、始終僕の心にあつた。ほんとに、ほんとに惜しい人を殺したといふ意外に、僕は今色々な印象などは書く氣になれない。

新刊三つ

社會思想普及會から、三つの新刊が出た。普及會の名に相應はしき、氣持より佛蘭西流の裝禎であつて、三書ともに作者の最も得意のものを集められた。誌友諸兄にすゝめる。

△社會主義は危險思想にあらず……………安部　磯雄
△社會改造の諸思潮…………北澤新次郎
△民族と階級……………大山　郁夫

神田區錦町三ノ一六、
科學思想普及會、（各七十錢）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『三人の會』の報告

中村吉藏、小川未明、秋田雨雀三氏の爲めの紀念會を稱してこんな風な名にした。この會の發起には、大體二重の目途があつたわけだ。當面の趣旨としては、三氏が——各人地盤や思想傾向に多少の差異こそあれ——これまで長い間、社會主義的系統の文學者として、文壇といふ賭博場に、正義を目がけて恒に奮闘して來られた多年の勞功に酬ゆる千分の一だけの感謝の意を表したいといふ、稍文壇的な考と、もう一つにはプロレタリア文學者とか稱せられるところの、急進的な思想團體や思想人の舊文壇や社會制度に對する廣義のデモンストレーションにしやうといふことだつた。で、その爲めには、なるだけ來會者の多數を希望した次第で、往復ハガキは三百枚刷つた。臨時事務所は京橋南金六町の畫家村雲毅一の事務所を頼んだ。非常にいい成績で、三百枚のうち、二十三名ほど缺席者の返事があり、百八十何名かの出席者の返事が、當夜までにあつた。ところが、當夜（六月二十五日）になつてみると、端書を出さずに出席した人が約四十名ほどもあつて、總數二百二十名ほどの出席を見たわけだ。當夜の催に到る迄、前後三回の發起人相談會に出席して、種々奔走してくれた人たちは、佐藤（先驅座）大瀧（イブセン會）佐々木、今野、青野（同人）二橋浦泰雄（畫家）村雲毅一（同上）等であつた。それから、當夜、朗讀をしてくれた先驅座員一同其他の兄弟姉妹にも感謝する。

デモンストレーションの一途として、政府が屢々我々を脅かさうとする傳家の錆刀、過激法案反對の決議をしやうとのことは、發起人側の前々からの一相談で定まつてゐた。それに就て、朝日の新居格君が、幸ひ當夜の發起者の一人でもあつたから、口火を切つてくれることになつてゐた。それから讀賣の千葉龜雄君にも是非應援をして貰ひたい、尚、最後の決を採る際には、島中雄三君に起つて戴きたいと思つてゐた。そして凡てが最初のもくろみと合致したので、充分に計畫は中つたわけだ。唯、

すこし妙だつたのは、新居君が起つて動議を出してくれた時、ちよつと胴忘れして、僕が補足しなければならなかつたことだ。是は、發起人側が責任を持つ。何となれば、當夜は會費の全部を張り詰めて酒精類に傾注したのだつたから。讀賣新聞に（N）と署名した、恐らく野村吉哉君だつたらうと思はれる人の、當夜の記事は、少し誇張に過ぎて、場の空氣を摑まなかつた次第だと思ふ。ようがすか、一體、この種の會合が、どこのどの人種によつて聞かれやうが混亂するもの、喧嘩の一つ二つはあるものとは相場がきまつてゐるのだ。それを、滿場一致で可決した上、二三の質問者が出て、ちよつと云ひ爭つた位ひで、AとBとの論爭だなどとは、少し氣がやさすぎる。もともと中心點は、反過激法案にあつたのだから原案賛成者は賛成し、不賛成者は起立しなかつた筈だ。何も賛成したからと云つて、我々は過激法案を恐れてゐるとは定まつてはゐない。デモンストレーションはデモンストレーションである。又、今の散會以後、誰がどこでどんな演説をしやうとしまいと、それは各人勝手なことだ。喧嘩過ぎての棒ちぎれで、あとから力み返へつたとて、Aが欲したのBが退却したのといふ事實は毫もない。

そんなこんなだ、會は二つの目的を貫徹したわけである。今後、當夜の會の意志が、我々の間に繼續さるべきものとすれば、必らず、過激法案に對して儼然として公開抗議だけは申込める地ならしにはなつてゐると思ふ。尙、當夜、其他の件に就て議したかつたのだが、肝心の關係者が田舍へ返へつてゐたので、出來なかつたことは遺憾である。會計は、大部不足だつたやうだ。それも佐々木、今野の二人が、有志の人々から寄附を募つて補充してくれた。『三人の會』の報告は、ざつとこれだけである。以上列記の同志、友人諸君に深謝する。

（前田河）

『一ツの魂』

五月頃妹から借金してぶらり土崎へ來て見ると洋文が來た、賢三が來たで大分賑かであつた。身の周圍から電車や自働車、廣告、ビラ、埃、人影と云つた樣な都會の混雜を剝ぎ取られて仕舞ふと誰でも茫然するものだが、僕と來ては例に依つて度をすごして仕舞ふ。友人二三人

にロ早に何のかのと辯じ立てられては溜らない。頭がいゝ加減熱くなつてくる。それに晴れた五月空に汗水流して花火を散らしてゐる雲雀だ。雲の往來が活動のフィルムの樣に走り過ぎた。とぎれとぎれの斷話がやつと判つた。苦笑した。

『はゝあ、奴さん達儲けに來たな!』

洋文がずうと前に作つたものを松竹で映畫にして無斷で興行してるとかで怒つた胃病の彼を二ケ月許り前に見たことがあつたが、愈々その時の話どほり事が進んだのだな、と段々明瞭に判つて來た。

『なにしても儲けるのならいゝ』

勞農社へ來て見ると賢三がちよこんと坐つて善良に笑つた。赤旗の六月號をポケットにしながら、『種まく人の君の小説は見せないで出したのでやられるかと思つてね』と云つた。然しあの誤植では大丈夫だ!

日暮頃であつた。秋田市の旭館と、土崎の日新館へフイルムを持つて往來しその上說明の勞をとらねばならぬのだからもう斯うしては居られぬといふ樣な意味を述べて早々に辭し去つた。

然かもその夜のことだと思ふ。洋文作『二ツの魂』のビラが到る處に貼り出されてゐる新綠の町を與太ッてゐる中にフィと寺へ入りたくなつて仕舞つた。獨立自治を標榜して立つた土崎青年團有志會が矢張りその夜であつたからだ。

二三名の人より知らないし、默つて見物出來ると喜んでゐた心願の甲斐もなく賢三に發見けられて仕舞つた。續いて絲瓜の樣にふらり入つて來た洋文にも、

洋文の目が野次の光でいつぱいになつて僕の方を向くこくりこくり顏を搖り動かして、仰のけになつて笑つて。

(わいわい、そんな處にちゞこまつて居れる柄かい、ははは!)

到頭、釣り出されてのこのこ出て行く。緊張した氣が場内に漲ぎつて居た。小熊君が土崎青年團の歷史を述べ終つた。官製青年團が如何に無能、無責任なる幹部に依つて指導され、ブルヂョアに奉仕して來たかゞ何人の胸にも明瞭になる。——健康なら青春體に移植された梅毒を治療するには單にその徵候の表はれた局部の切開ばかりではなしに、全身を廻るその毒血を掃蕩しなければならない。實にその一點に皆の意見が殺倒して行つた。

緊張のクライマックスが、遙々東都から走せつけた賢

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

三をして熱辨の鞭を以て有志會員を『その一點』に驅り立てねば止まなかつた。二三の反動的言句はその熱誠の中に溺らされて仕舞つた。

『彼の官僚の手から青年團をモギ取れ。青年團をして眞に青年のものたらしめよ！』

胃に惱む洋文の蒼白な顏が悲壯美に輝いて、賢三の口を結んだ後、反駁する者等を說得した。

間もなく秋田市に映畫の說明に行かねばならぬとかで彼等は立つた。

脫線――。翌日、僕達は胸に赤いリボンを下げて日新館に入つた。四郎五郎の塚原小太郎に助けられた猿が『きやツきやツありがとう』には失笑させられた。が、まだ無邪氣だゞけいゝ。次に表はれた三島章造の『愛の導き』に到つては實に鼻持ちがならぬ。ブルヂョアの不良とプロレタリアの不良が結合して、尻の輕いお轉婆を誘拐する。折しも其處に巢を喰つてゐるボーイスカウト、その團長三枝某が、急を聞いて走せつけ、危い處でお轉婆を救ひ、その身體に附いてゐる財產權を保護し、その上實際有らう事か有るまい事か兩人の不良青年を感化してボーイスカウトに編入するといふ厚顏しいブルジョアカルトなのだ。僕の隣近所で『あれだ』と騷いでゐた者があつたが、すると不良に牛乳をぶつかけられたり、金時計を盜まれたりした團長が三島氏だらう。どうも彼の不良をじつと愛に燃ゆる目で見つめるその眼に直ぐにトルストイの猿みたいな顏や、レミゼラブルとか何とかいふ坊主の顏が、露骨に出て來て拙いと思つた。どうしても役者の技巧では無いと思つたがそれで明瞭になつた。然しあれが素人の三島氏だとすれば實に圓熟したものである、後來恐るべき素顏である。『新しき村』實寫一卷は洋文が說明した。新しき村の意義を說明し、あはせて『生命を賭しても僕達はまた僕達の使命を果すのです。その點に於て新しき村の武者さんと僕達とは一致します。』とその序言を結んだ。が、それだけは不服だ。流るゝ歷史の意義を知り、その目標と到達點をも究明した僕達は、更に歷史を創造する力と熱――使命――プロレタリアートに見出したではないか。僕達の戰場は何處でも資本主義の存在する處に存在する。僕達は絕えず戰はねばならない。その陣地をすてゝ『遙々此處にきみゐでら』と云ふ風な和讃の文句の上ならまだしも、日向くんだりまで逃避行する必要が何處にあるのか。

『生ける』か『死せる』か解らない『高等移民』とその『使命』を一緒にされてはたまらないね。

音樂が鳴つた。見て居ると面白い。『生ける武者小路』さんがひよこひよこと出てくる。

人が大規模の工業生産を基礎とした共産社會を創らうとするのに、この人達は資本主義に依つて滅された手工業時代の生産を再興しやうとする。……見てゐると實際面白い。『歴史の車輪を後へ廻さんとするの徒』の燒印が脊にあらうが、どうか、躍つてゐればいいのか。見ろ、この假裝行列の躍りを。チャップリンもゐれば福助もゐる。この映畫一巻の評は秋田さん作、『水車小屋』の第二の娘の次の一言を以て盡きる、

『わい、はあ、この人達!』

賢三が出た。拍手が湯のやうに降つた。『新派悲劇、二つの魂』が映寫された。僕達の前の前に竝んでゐた姐さん達を感心させた映畫であるだけその一面も考へなければならなかつた。賢三の努力を多とする。且つ種蒔き社及青年部の基金に對し特に甚大の考慮を拂はれた興行主洋文及青年部のために最後まで奮闘してくれた部員古野に敬意を表する。

翌晩、勞農社の大警戒が始まつた。封鎖の犬を肴に一升の酒をのんでゐるうち惡戯い氣がむくむくと湧いて來た。外は闇、四方に人影が散つて消えた。

日新館で再び『愛の導』を見てくしやくしやしてゐると賢三が來た。警戒の事は流石にもう知つて居た。僕達は何の爲に警戒するんだか皆目解らなかつた。心にあれば遂口にも出る。

賢三は『僕達が來たから斯う警戒するのだ!』と言つた。それで解つたが、だらしのない警戒をするない!

脱線――。洋文の地獄に納められた、『殺された七面鳥』を批評する積りであつたが。雨も降つてゐるし、夜も更けたしこれでまあ暫しの程御免候へだ。

なにしろ五月頃から來てまだ家へ歸らないので、家では生死の程も解らないでゐるだらう。が、まあ家族は後まはしにして諸君に健康報告をする積りで『たより』にもならぬ『批評』を送る。惡しからず。

――一九二三、六、十九日夜――　(不知火)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

世界欄

革命勞働者國際會議

ルール地方に於ける革命勞働者評議會の手でフランクフルトで自三月十七日至十九日の三日間國際會議が開かれた。會するもの殆んど二百五十名、凡ゆる黨の代表者、共産主義者、革命的勞働組合主義者、獨立社會黨員、社會民主黨員が帝國主義的戰爭に反對する共同戰線上一堂に會したのである。單なる決議を發表することに滿足しないで實行方法を討議し二十五名の國際委員をあげて永久的に會議を開き日々に起る問題を直接に決定して行くことになつた。滑稽なことにはルールの最も危險な所で革命勞働者達が軍隊その他の壓迫に抵抗し晝となく夜となく武裝せる勞働者の防禦によつて完全に會議を進行さしてゐる間に花の都パリでは第二インターナショナルの親玉達は二十五名の議員連は（四分の三は勞働者ではない、どつちかと云へばブルジョア大臣級連中）は賠償や擔保問題を論じとゞのつまりこれらの目的は重大なものであつてルールの占領を以つてしても到底達することは出來ないといふ結論に達したといふことだ。

さて國際的革命勞働者會議はルール地方工場委員會議長フリーゲの開會の辭に始まり、次にコラロウが共産黨インターナショナルのために、ロゾウスキイが赤色勞働組合インターナショナルのために立つた。彼等の報告は各代表者によつて討議され、各自國の情勢を解剖し具體的の提案を示した。大英國共産黨代表者ウオルントン・ニューボルトは英國勞働黨の政策はフランス帝國主義とたゞ言葉のみで闘ふのに反しイギリス帝國主義をば行爲を以つて擁護したと喝破して大喝采を博した。「ルール・エコ」の主筆である主要なルール代表者は宣言して云ふのに、資本家共がフランスの軍隊とドイツの勞働者との間に敵對行動をとらせ樣とした企ては成功しなかつた。

他國の言葉こそ譯らなかつたがドイツの勞働者がフランス側に向つて「カシヤ万歲」（フランス共産黨幹事でルール問題で逮捕されてゐた）と云ふとフランスの側からすぐ應答された。

これよりフランスには統一勞働總同盟と共産黨との間には聯合行動評議會が出來上つてゐたのだ。

會議は更にベルギーとフランスの階級戰の入獄者に挨拶を送ることを決議した最後に會議は各代表者はロンドン、アム

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ステルダム、ヴイエンナ、ベルリンの改頁主義インタナシヨナルに近づいて各勞働階級團體の世界大會開催についてのプロレタリ運動につき參加することを求めることを決議した。

ルール問題がどう發展して行くか、萬國の革命勞働者の責任も亦大きいと云はればならない。幸ひ獨乙共産黨も捲土重來の活動をしてゐるから心强いと云はればならない。

因みに右の決議にもある樣にベルギーで重立つた共産主義者が四十名投獄された。罪名は獨乙に對して祖國を賣つたといふのである。ベルギーの、鑛山勞働者の大罷業に共産主義者が大活動をなしたので大いに社會民主黨で攻擊したものだ。例のヴアレダヴエルデだ。ヤルル・ラデツクなぞは大いに奮慨してヴアレダヴエルデに道德的責任があると宣言してゐるがどつち道『道德』などの持ち合はせがない指導者大臣なんだからやり切れない。フランスではポアンカレーのためにカシヤレか入獄してゐる。先日ポアンカレーが辭表呈出の芝居を打つたのもカシヤンが憎くて耐らないからだ。東西期せずして支配階級心理は同一だ。白色恐怖は再び盛となつてきた。エヂプト、ブルガリア皆然りだ。これからどこも一しきり盛になるだらう。

ルールとロシア勞働者

万國の勞働者の眼は今ルール問題に集中されてゐる。これこそ眞にインターナシヨナル運動である。インターナシヨナル運動の單に名のみでないことを今や世界のブルジヨアジイは知るであらう。今ロシア勞働者のルール勞働者に對する經濟的援助を紹介しやう。

ヤガロトラストの使用人は一乃至九賃銀階級は月給の二パーセント、十〇乃至十五賃銀階級は四パーセント、それ以上の賃銀階級は六ダーセントをルール勞働者に送ることに決定。

ペトログラードソビエツト勞働組合はルール地方の同盟罷工勞働者並に使用人に二二五シエルウオネッツ（一シエルウオネッツはロシアの紙幣で金貨で保證されてゐるもの、約二二五留で獨貨約二七五萬マークである）を送ることに決定。

ペトログラードソビエツト勞働者は罷業基金の中から二五〇金留を送金した。

ドレ地方鑛山勞働組合では五萬留（二千三百五十萬マーク）をルール地方鑛山勞働者に送金した。

ロシア教育勞働者中央委員會は三千留（百四十萬マーク）を送金した。

第三インタナシヨナル倍大會委員會

五月に開かれる。委員會は二十五名のインターナシヨナル執行委員の外にドイツ、フランス、ロシア、チエツコ・スロワツク、イタリ、青年共産同盟より各三名の代表者、並にイギリス、ポーランド、アメリカ、ブルガリア、ノルウエより各二名の代表者、並に投票權のある各部から一名の代表者から成る（第四大會の決議による）協議假事項は左の如くである

一、プレジデイウムの報告

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

二、ルール占領とそれに附帯する諸問題
三、協同戰線鬪爭の尙一層實際的な方策
四、ファスシズム打破
五、工場委員運命に關する勞働組合問題
六、共産黨インターナショナル內の中央集權主義制限に關してスカンヂナヴイア同志との討論
七、第二、第二半インターナショナル合同
八、イギリス勞働運動の狀勢
九、共産黨インターナショナル鋼領製日の準備
十、各部よりの提案

詳細なことは次に讓る。

ロシア兒童からの手紙

悲しい哉日本へ來た手紙ではない。イギリス共産黨の支部から食糧品の小包をロシアへ送つたについて「子供の家」にゐる子供達からの可愛いらしい感謝狀だ。日本に關係ある名のついた「子供の家」はまだ一つもないだらう。讀者諸君奮つて據金してくれ給へ。

□

親愛なる同志よ、

僕たちの生徒達は皆様の御送り下された贈物に對して僕たちの心からの感謝の念を捧げます。資本家のために壓迫されてゐる遠方諸國の勞働者達が僕たちロシアの若い同志のことを忘れないでくれて色々御祝ひを述べられたことを考へてみるとこの贈物は僕たちにどんなに高價なものでせう。皆様の御祝ひは僕たちの心を鼓舞してくれます、そうして僕たちは近い將來に皆様が資本から解放されそうして……………………………………………………。

一九二三年一月十一日

共産主義兒童用第三號「子供の家」生徒四十一名署名

□

懷しい小父さん達よ、

冬はすつかり過ぎさりました。私達は飢ゑてゐたのです。今皆よくなりました。皆さんの小包は私達に非常な悅びを與へてくれました。私達は皆さんが私達子供を忘れないで下さつて救つてゐられることを感謝します。

一九二三年三月十日

在サマラ「子供の家」

ヅォイア・マカロヴァ

ペテイア・ヴアロデイン

赤色スポーツインターナショナル

確か昨年本欄で簡單にこの赤色スポーツインターナショナルのことを紹介して置いたが、この運動は次第に發展してイギリスの如きは多くの共産主義勞働者の間にフートボール、水泳、自轉車、徒歩等のチームやクラブが出來て非常な成績をあげてゐる。昨今日本も大分運動熱が盛んになつてきたから恐らく今後巧妙な資本家の手がこの方面に活躍して勞資協調

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

熱や軍國主義の宣傳に利用するだらうと思はれる。共產主義者たるものはよしんば滿まらない問題であつても今から敵に利用きれない中に却つて味方叫合の機會を作る樣によく研究して置く必要があらう。兎に角これは金のかゝらぬこと、團體運動であることが一番大事な要件だ。前述の樣に運動熱は今後益々盛なる許りで衰へることはないのだからこの方面の開拓に獻身的に盡す共產主義的勞働者はゐないだらうか。因みに赤色スポーツインターナショナル詳しく云ふと、「赤色スポーツ(競技)並に體育インターナショナル」とでも云ふべきものだ。

△

赤色スポーツインタナショナル
假規約

(一)原則

(イ)赤色競技並に體育インターナショナルは國際的プロレタリア競技運動を統一するために、プロレタリアを資本の壓迫と凡ゆる絞取から解放するため……、

………………………………………………………………

………………………………………………………………

(ロ)…………………………の原理の上に立つ處の世界プロレタリアの競技並に體育團體はすべて赤色競技並に體育インターナショナルに入るものとする。

(ハ)赤色競技並に體育インターナショナルは共產黨インターナショナル、赤色勞働組合インターナショナル、青年共產主義インターナショナル、並に共產黨インターナショナル婦人部と連絡を保つものである。

(ニ)これらの諸規約は假規約であつて第一回スポーツインターナショナル大會まで效力あるものとする。

(ホ)赤色競技並に體育インターナショナルの費用は各員の據金によつて償はれる。據金の額は來るべき大會で決定されるだらう。

(二)大會(略)

(三)執行機關

(イ)赤色競技並に體育インターナショナルの仕事はインターナショナル大會によつて最もプロレタリアスポーツ運動の隆盛な國々からの大會代表者の中から撰出される執行委員會の手によつて行はれる。

(ロ)執行委員會の仕事は左の如し

(a)赤色競技並に體育インターナショナルの目的を知らしめ、體育に關する凡ゆる問題を調査すること。

(b)全世界の競技並に體育のためのプロレタリア團體を統一して…………の………………………………ために彼等の援助を求めること。

(c)國際的競技祝祭日、デモレストレーション、オリンピック競技等を組織すること。

(ハ)略

(ニ)略

(ホ)赤色競技並に體育インターナショナルの幹部會の決議を實行するために幹部會の二支部(サブセクション)を設けて歐米を包含させる。ドイツ、イギリス、フランス、スカンヂナヴイア、フインランド、オランダベルギー、オーストリア、ルクセンブルグのために伯林へ、チエコ・スロワツク、イタリ、ユーゴ・スラヴイア、ハンガリ、バルカン諸國、アメリカのためにプラー

グへ置く。

（へ）ベルリン及びプラーグの幹部會支部は夫れぞれドイツ並にチエコ・スロワック共產黨に屬す。インターナショナル大會の公認によつてそれらには共產黨勞働組合、青年共產主義團體、婦人共產主義團體及び勞働者競技並に體育協會の代表者を包含する。

（ト）各國に於て、競技並に體育運動の指針及び組織は地方委員會の手中に置き該地方委員會は現存せる地方團體に應じて該國の共產黨中央委員會によつて作られる。

エル・ボドウオイスキ、アラン・ワオルレーニウス、エル・シユルチーエツチ・ジエルマン（スポーツインターナシヨナル幹部會書記）

防援會設立の趣旨

資本主義の爛熟につれて、經濟的に利害相反する階級と階級との間に、爭鬪の激しくなつて行くことは、今や世界を通じての現象であります。階級爭鬪は、今日の資本主義制度から、愛と平和と共同奉仕の社會へと推移し進轉する、進化の過程に於ける避け難き現象の一つであります。隨つて、階級鬪爭の犠牲者は、社會進化のための、尊き犠牲者であります。私たちが、防援會を設立するに至つ根本の趣意は、實に、此處にあるのであります。勞働階級の戰ひは、資本主義制度の存續するかぎり、已むを得ざる必然の對抗戰であると同時に、正義の、征服戰であります。それは必ず勝つべき約束の戰ひであります。然るに我が日本の現在に於ては、勞働階級無產階級の戰鬪的組織が尙ほ未だ不十分であるがために、殊に戰鬪に必要なる兵站部の組織が殆ど全く缺如して居るために、對資本家の戰ひは多くは無慘の敗北となるか、少くとも屈從を意味する妥協に局を結ぶの遺憾を繰返してゐます。戰鬪に必要な組織と用意とがないからであります。有力な經濟的機關がないからであります。防援會は即ち、此の必要に應じて生れた日本初めての戰鬪的經濟機關であつて、同時に階級戰に於ける一種の赤十字的任務を完うせんとするものであります。

防援會會則摘要

（目　的）

一、本會は、勞働運動、小作運動、其他社會運動の犠牲者及び其家族を、防衛救援、慰安するを以てその目的とす

（構　成）

一、本會を關東部關西部に分ち、部內の各地に支部を設置す

一、兩部の委員會を以て本部を構成す

（會員、贊助員）

一、本會の趣旨を贊し十圓以上を寄附したる者を以て會員又は贊助員とす
但し會員たるためには場合により委員會の承認を經ることを要す

一、會員は會費一ケ年三圓を納付するを要す

（委員及會計監督）

一、本會に若干名の委員を置き、本會の目的を達成するに必要なる諸般の事務を處理せしむ

一、關東部關西部に各二名の會計監督を置き、資本を保管せしむ

（資金及び事業）

一、資金は主として會費及寄附を以てし其他出版・講演・音樂會・演劇會等有益なる事業の收益を以て之に充つ

一、小額寄附募集のために防援券を發行す

一、資金は防援に必要なる有らゆる事業に使用す

◇寄附は小額の五錢から——寄附は小額五錢から、一圓二圓、十圓二十圓、百圓二百圓……以上多ければ多い程結構であります

◇後とは言はす今直ぐに——後とは言はず今直ぐに、どうか諸君！そのポケツトの幾分を割いて、意義ある用途にその貨幣を向け給へ。

東京市日本橋區蠣殼町三ノ八
自由法律相談所內　**防援會假事務所**

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

聾人欄

「地獄の會」

失名氏

今地獄の出版記念會から歸りました、私はいゝものを見たと、共に、私の偏見かはしらないが私の求めてるものぢやない、解せないものを見せつけられた、このものが私に取つてはいゝものだ、私の力では私の道を指示して吳れるものだ、

私の求めるのが無理？　私自身があの會から受けた、あの貴方のたゞよはした雰圍氣のその感じは、私の理念、感情の變態、それを生んだ身體の健康に據れる錯誤からか、しらないが、そこには私の求むるものゝ片影が今野さんに依つて認められたのみだ、私は兼々尊敬してゐた貴方達の眞劍味、その態度は私の頭を下らしめ、襟を正させるだらう。その熱情を、純潔と、勇氣、正義を愛するの心がどれだけ私を勵して吳れるだらうか？　と思つて行つた、だが見事裏切られた形になつた、私は、これぢやあんまりいゝ同志、尊敬する人ぢやないと感ぜさせられた。

夢の朗讀が始まつた、美しい水谷八重子、西條シブ子、その指粉の顏、美しい着物の着こなし、どこから見ても立派なお孃さんだ、立派な新時代の女優だ、そして讀み始められた立派な朗讀だ。お上品な、高尚な、何等の感激味のない、しかるに、在來のお孃樣らしい言葉使のリファインされたいゝ聲だ、調子だ。そしてまあ何といふ美しい『夢』だらう、美しいお孃樣の何といふ內容だらう、勿論一言三言の私達の求むる片鱗はあつた、然しこれとて・美しい瓜實顏のいゝ髮の、折目正しい洋服のそれだけで勞働者より偉いと思ふ、銀行員の口からも、洩れるであらう言葉だ、眞際こうした言葉は金子さんに對して失禮かも解りませんけど、そう感じたのです、さう感じさせた理由は簡單です。

思想を年治に轉換する時にのみ、その人が思想の所持者であると云ふ事を感じた人がダダイストである。とリヒヤルド。リウゼンブツクが云つたそうです、その言葉です、それは果してダダイストにのみ限られて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いませうか？ いゝえそれは凡有る人人の思想がそうでなくてはならないものではありますまいか、

炎ゆる反抗は鐵鎖の世の不合理、そのものゝ生む、悪と、虐げられる人々に對する愛と、人類の善への解放の爲の正義から生れたものではないでしやうか、

鎖を斷切れ!! おゝ斷切れ、この言葉、この葉この麗はしい悲壮な言葉を呼ぶ人間は、美しい指粉の顔と、絹のきらびやかな色彩の着物、あるひは高貴織の夏羽織、折目新しい洋服、尖つた靴を、承認することが出來るか？

少くなくとも私、――女坑夫の氣の強い、だが子を愉して涙をほろほろ流す無智な人を母とし、弱い氣の短い電工を父とし 鑛山に生れ少年勞働者ともなり、今は虚弱な身體と慾求と、反抗に炎え性慾に惱み、働いてる私は承認出來兼ねる、隨つて、『夢』そのものゝ書かれた動機、そのほんとうの價値は どうだか知らないが今夜のやうな演出方法によつてなされ、あんな口調、因習的な女優的氣分？ によつてなされたのは遣憾でならない、と共に、そうさした金子氏？ を私は（この私がどこまでも正しとは云はない） 不滿に思ふ、――思つたのだ。

地獄に就いては朗讀のみでは私は何とも云へない、演出方法如何に依つてはこの脚本がどんな力強い、いゝものでもあり得ると思ひますから

二階で懇親會がありますから、今野さんはこうおつしやつた。私は未だ私の先輩であり私達を愛し、私達の尊敬する人々の お話を聞く機會とてなく、そんな境遇でもなかつたので、又どんなに私を喜ばせ、感激し私の生長の助けともならう言葉を聞くことが出來るかしらない、と思つて二階に上つた。綺麗な私には當つて見た事もない西洋食卓？ が行儀よく竝べてあつた、會費一圓五十錢!! そんな金はないんだ!!

私は西洋料理の食方もしらない。フォクをどうして持つていゝんだかも知らない、そりやどうでもいゝ、一圓四十錢の日給を貰ひ 每日藥と夕は赤い包紙の睡眠藥に涙を出す 私が一夕に一圓五十錢!!、

どうしてせめて五十錢にでもして私達と澁茶に 鹽煎餅でもかじつて話しては下さらないのでしやう、地獄では日でりが續いて食がどうだかも危しいのに、西洋料理？ の一圓五十錢、どうして私達少くとも私とは話して下らないのです、

私のこう云ふ聲は、自分の希を容れなかつた個我的な淺ましい勝手から出た、貪慾の斷片でしやうか？ もしくは極く積らない、一笑に附し去る價値もない 誤解でしやうか？ 私は、でないと思つたから、感じたま

ゝを云つたに過ぎないのです、その埋に炎ゆる一貫した純一の炎を私は認めることが出來なかつたからです。幾多の厭な、不徹底な過去の影が餘りに見へすいたからです、もし私はこんな事が至る處であふた方に見られ、誤解ならこの誤解がとかれるまでは、Kamarado! と呼びかけ悪い、だがあなた方は利口な方で學問もたつぷりおありなさる。唯冷笑してゐやう、私の無智から來る偏見なら御許し下さい。そうだ、私には道が、ある。單なる感情、確信、ではない、明確な理念に、勇氣と、熱情だ、鎖は大きく、私は小さく、私達同胞は鎖が見へず、況はんやそれを信じてる、世に坑し、人類を愛しやう、少しでも、無名の英雄そうだそれがいゝ、でも虚弱の身體、知りたい慾念、自己の矛盾、冷たい理念に立つた炎ゆる反抗、食ふものは皆ゝな食ふ、食ひ切れないで倒るれば

それでいゝ、私は尤奮して歸つた、光あれ、今にある、敢然と歩め!!

一九二三、六、十八夜

田園詩人一束

關根　尊

日本の詩人中に田園詩人と言はれる人がどの位居るのであらうか、先ず尾崎喜八を擧げ佐藤惣之助、次に國木田虎雄と記憶を辿つて來ると、日本詩の詩人の盡くが田園詩人の様であり、また嚴密に選擇して來ると殆んど其に當らないのである。日本の詩人は皆な都會の雜音から田舍に逃避しやうとする、また田舍に憧れて歌つたりする所に、田園詩人としての特質を持つて居るのである。が、田園詩人とは本來田舍に住むで、自ら耕して居る者から生れるものでなければならない。斯うして嚴密な意味を以つて見る時は吾が詩境村に其に相當する詩を作つて居る人は全く見當らないのである。どうせやくざな無精主義と原稿料ボル主義の日本詩壇の事であるから、其處に眞個の田園詩人が居なからうとて別に騷ぐに當らない眞面目に彼等の作品を批評しやうとしても、まづ先きに悪口を叩きたくなる所以である。各々色どりこそ違へ、等しく有産階級のおせちや的作品をひり出す點に於ていさゝかの異いもない彼等を一束にして、吾々の世界から一掃しなければならない。

『私は都會より田舍へと航海なする』と言つて彼等は、都會の雜音と塵埃の中から、田園の生活に憧れて行く。彼等は絶えず中天に虹の如く、實は勞働の苦痛其物の様なおはいゝ臭い生活を、「田園生活」と言ふ美名をもつて描き出して居る、そして出來上るのが、田園を讃美した彼等の詩なのだ。

彼等は田舍へ出掛けて行く。其處には暇にまかせて造りあげだ幻想の生活とは比較にならないみにくい様々な事實が待ち構へて居る。普通の人間なら、そこで手痛い幻滅を感じて心機一轉して來る筈だ、ところが不思議な魔術を心得て居る彼等は、勇敢にも嚴然たる、臭惡な矛盾した事實を忽ち美しく色どつて了ふ。いや低能な故で田園の不正も臭惡もお氣付

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

きにならないのだ。だから彼等は一恰呑氣に『大地を堀り返す』農夫の苦痛を幸福として歌ひ、『とりいれ』『落穂拾ひ』の頃農村に溢ぎる悲慘な空氣を、法悦の感情をもつて歌ふのである。そして虚僞と不正を極めた内容を、きらびやかに詩的粉飾をこらして作りあげるのが、彼等の「人生の詩」なのである。

理由を云ふまでもない。私は斯うした無智低能な輩に言ふ言葉を知らない。「詩を作る前に、手に豆を作り給え」などと彼等に向つてお世辭にも言へないのである彼等は睾丸を嚙むで慚死すべきではないか。

詩二章

鈴木熊

無題

煙
眞黑な煙――
空を突きさす煙突の林立から
勞働者の心臟を吐く煙は
暗灰色と混濁せる都會の空は
煙の戰慄に顫え
赤い俺の心臟は
…………………
……、……、
………………!
………
……………!

――一九二三、四、五――

無題

汽笛
兵器廠の汽笛
心臟破烈の銃聲の爆音
上昇し奔騰し
縱に横に疾驅する
都會の空は戰慄の波紋に狂ひ
俺の胸は肺臟のダイナマイトが爆發
して
心臟が頭へ飛び込んだ
…………………………
……
…………………………

――一九二三、四、二一――

火は燃える

田村耕二

…………
………………
俺が焰の洗禮を受けてもう一年
その一年間に
兄弟達の胸に擴がつて行つたあの火
の勢ひ
去年の四月
若い教師の手によつて
校庭に蒔かれた焰の種は
どんなに成長し
どんなに繁茂した事か、
だがこの突然の雜草の繁茂は
今までひよろ〳〵と伸びて居た作物
の
老ぼれ教師達をどんな驚かしたらう
苦しい開拓者は早速首になつた
曰く中學校は社會主義を敎へる所じ
やない
ふゝん！　資本主義の犬を養成する
所だと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

よくも白状したものだ、
種まく人は云つた
そして近い中に又俺も首になる筈だ
　君はもう早 將來役に立つ見込がない
と、
勿論だ、よ 君達の役に立つてたまる
かい
かうして俺達は 片ぱしから追はれる
だが!!
火は燃える
きつと燃える どこまで行つたとて!
火を燃やす者は命がけだ
消す者は 俸給を時間割にしての仕事
だ
俺達兄弟のこの火の消えるのは
…………………………
……………………………………
：
……………………………………
……
……………
……………………………………、

小曲

生田美和

お前悪魔よ、
そのお顏は何だい、そんな 所に居て、
そしてその皮肉の笑ひは、
私は參りはしないよ、
お前の力は、それつきり ぢやまさか
有るまゐね、
有つたらいくらでも 奥の手を出して
ごらん、
お前がどんな方法でどんなに、
とつちめやうとしたつて、
この私はふん參るものか、
お前、悪魔よ、そのお顏は何?その皮
肉の笑ひは、
そんな手が何だい、
そんな眼が!、
私は參りはしないよ、
どつちが勝つか、戰つて見やうね、
フン、しかし お前は痛快な奴だよ、
お前の樣な奴がゐなかつたら、
人生もつまらないものだらうからね
何だいそんな所にゐて、その 皮肉の
笑ひは、
もつと來るなら來ればいゝぢやない
か、
ふん、どこまでも お前はお前だね、
しかしまあいゝ、
うんと小腕に力を入れておゝき、
　——一九二三、二、九——

◎種蒔き社の移轉

本社は今回東京府下代々木山谷四〇
二番地青野季吉氏方に移轉した。

◎ロシア子供救濟の寄附金は 申込み
者及び金額は 次號に於て發表する。
相變らずふるつて寄附 御申込みを乞
ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

獄を出て

A兄へ

中西伊之助

×

A兄、

先日は、あんなに朝の早いのに、わざわざ放免迎ひをして下すつてありがたう。なんと云つても人間て奴はセンチメンタルなものさ、九十日あまりの社會的隔離から、兄やその他の人々の顔を、あの『營門』の前で一目ながめた時には、さすがに涙ぐましい、嬉しさを感じた。人間は時々ストラッグルな生活にぶつかつてみることだと僕は思ふ。お互ひの友情や感激はその間から生れるものだね。

×

A兄、

僕はすぐに兄が失業したことを、その時妻からきいた。そして僕の胸には、もうはつきりと暗い憂鬱さで一ぱいになつてゐるのを感じた。『これからの生活をどうする？』そんなことを、すぐ兄にきいてみたいやうな心がした。しかし、そんなことをきくのは、深傷を負ふた人に痛いだらうときくやうなものだ。お醫者にかかればいいと意見を述べるやうなものだ。僕はさう思つて默つてしまつた。が僕のやうにがむしやらに小説を書いてがむしやらに生活して行くやうな男ではない兄のことだ。嚴肅な態度で文明批評と………の强い行動に突進して行く兄のことだ。今後の受難が想像される。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

×

A兄、

兄や前田河君新島君などが非常に骨を折つてやつてくれた三十人集『藝術戰線』の印税は、たしかに堺利彦氏の奥さんへ手渡した。拾圓紙幣で二十五枚。それはなんと云ふ尊い金だらう！　なんと云ふ尊い勞作の結晶だらう！

僕が堺氏の留守宅へ行つた時は、奥さんは奥の間でどこかの婦人と話してゐられた。奥さんは僕が諸君の盡力をいろいろと述べて、それから印稅を渡すと、非常に喜んでかう言はれた。

『堺は、皆さんがそんなにして貰ふのは非常にうれしいから、それはお受はするが、しかしその中から百圓は今度できた防援會に寄附する。それから殘りの金の幾分を割いて、寄稿者や編輯者にお禮のために一緒に夕飯でも食べたい。でその殘つた金で、折角だから米代にすると申して居りましたから、私もその意志通りにしようと思ひます』

と云ふことだつた。そこで僕は云つた。

『僕は他の諸君の代表で來たわけではなく、使に來たのだから、代表的に云ふわけではないが、たとへ堺氏が下獄前にさう云つてゐられたにしたところが、現在のやうな尊い犧牲になつてゐられる限り、家族の方々の生活費に全部を使つて貰ふことは、恐らく全部の諸君の希望であらうと信ずる。でそんな顧慮は無用だから、どうか全部を生活費にあてて貰ひたい』

と奥さんは、しばらく考へてゐて、

『目下はまだ堺は接見禁止をされてゐますから、いづれ解除されて後に面會にまゐつて、皆さんの御親切を傳へます』

と答へられた。

A兄、僕等の今度の企ては、たしかに深い意義があつた。プロレタリア階級の感激の一つであつた。兄等と共に、僕は心からの滿足と喜悅を感じさせられる。

今日の新聞で見ると、堺氏令孃の眞柄さんも、大審院で懲役四月の判決があつたと云ふことだ。眞柄さんは、阿父さんの出て來られない中にきつとその執行を受けることだらう。眞柄さんの新夫の高瀨君も目下下獄中だ。かうして堺氏の一家を擧げて、日本のプロレタリア階級のために、その血を捧げてゐる。僕は小さい企ての『藝術戰線』が、大に愛讀者を得て、彼等の一家の生活の幾分を補はんことを望んでゐる。そして同著の出版元である自然社梅津英吉君もまたこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の企ての親切な共助者であることは、兄もきつと確認してゐることであらうと思ふ。兄等の命をもたらして、堺氏に使した僕として、これだけのことを、兄に報告して置く。

×

A兄、

牢から出てみると文壇には、例によつてプロレタリア文學に對するかなりばかばかしい謬論が横行してゐるね。文學者なんて手合は、到底思辨の遊戯――それも有合せのブルジョア敎化から生れた常識文學論――から一歩も出られないことを感じさせられる。彼等はふるい美學論にこびりつきたがつてゐるが、しかしその美學がどうして發生したかをさへ考へてみようとはしないのだね。現代はあるゆる智的權威の崩壞ぢやないか、農奴の中からブルジョア美學は發生しないぢやないか。アダムスミスの經濟學も經濟學なら、マルクスの經濟學も經濟學だ。こんな平凡な理屈が彼等にはわからないのだ、ブルジョアの作りあげた古い美學に蠱惑されて、それから一歩も出ることのできない日本の舊インテリゲンチャは、唯だ僕等の憐憫に値するばかりだ。

×

A兄。

現在のプロレタリア文學は、思索的方面からすれば、たしかにマルクス以前のユトピアンソウシアリズム時代だ。そしてもうプロレタリア文學のマルクスが出てもいゝ時代だ。トルストイの藝術論は、僕にはまだ、フーリエやサンシモンや、オーエンのやうな氣がしてならない。僕は兄や、平林君や、小牧君あたりから、一つ大きな經典を出してもらひたいと希望してゐる。

×

A兄、

前田河君が、『政府や勞働者が認めないと認むるとにかかはらず、藝術は存在する』と云つたことは、僕には全く解しかねる言葉だ。もちろん、僕等には政府なんかに認めて貰ふ必要はないが、それを勞働者と並立させたのはどう云ふわけだ。前田河君のやうな人達から、こんな言葉をきくのは意外だ。これは同君のなにかのかん違ひか、文字の上の誤謬だと思ふが、兄はどう思ふ。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

前號目次

資本主義と軍國主義…平林初之輔
無産青年運動の使命…青野季吉
午前十時その他………金子洋文
新らしき藝術青年に檄す……………
……………今野賢之
苦闘の三氏へ　葉書回答
メーデー印象記………前田河廣一郎
ブルヂョアカルトの組
織と本質………………赤根葭男
大地の匂ひ外一つ……小牧近江
その他文藝批評
雪を踏みて(戯曲)……佐野袈裟美

編輯後記

高尾君の社會葬を是非入れ度いと思つてゐるところへ、有島氏の自殺があつて、それも取扱はねばならぬので、締切りが遅れ、したがつて發行が遅れた。諒として貰ひ度い。

この前の「後記」に書くことを忘れたが、前月號あたりから、編輯の方針を少し變へた。それは、同人外の人の原稿は自發的に寄稿してくれるものは別として頼んで書いて戴くことは大體差控へることにしたのである。しかし特別號の場合は、大いに他の知識を求めることは從前の通りである。

同人の數もふえた。有力な闘士の參加もあつた。青年部も次第に充實して來てゐる。云はゞ陣容がとゝのつたわけである。これまでの戰線を更に擴張して行く時が來たのである。同人は大いに意氣込んでゐる。

「種蒔く人」を仆そうとか、タネマキストをどうとかしやうとか、振れ歩いてゐる人のあることを耳にする。自辨で廣告してくれる骨折りは有難いが、「種蒔き」はそんな芝闘廻りの甲高い聲くらゐで、ビクともするものでない。大いに野太鼓を叩いてまわるがよからう。

「種蒔き」が解放運動のコーズを踏みちがへたと言ふなら、劍をつき付けて詰めよるがよい。同人中からそのコーズをそれた者が出たと言ふなら、それを指摘して難詰して貰ひ度い。小さくとも「種蒔き」には「種蒔き」としての團體的生命がある。團體的自決力がある。腐つた部分があつたとしたら、それを切り取ることに躊躇するものでない。

九月は國際無産青年週間のある月だ。それで本誌の九月號を無産青年運動號とし、主として青年部員から活動して貰ふことにした。十月は本誌誕生の三週年を紀念す可き月である。紀念號の計畫については次號で述べる。(A)

定價　一部三拾錢◇半年前金一圓八拾錢◇一年前金三圓六拾錢御註文はすべて前金のこと◇代金の領收は雜誌發送を以てする◇送料内國壹錢外國四錢

廣告　廣告及廣告料については直接本社へ問合せを乞ふ

宛先　寄贈、通信購讀申込及び送金、其他本誌に關する一切の御用向書籍雜誌等の寄贈は凡て「種蒔き社」宛

締切　毎月五日

大正十二年七月廿八日印刷納本
大正十二年八月一日發行

東京府下代々木山谷四二五番地
發行人編輯人印刷人　今野賢三

東京市神田區佐久間町三ノ十九番地
印刷所　三洋印刷株式會社

東京府下代々木山谷四〇二番地
發行所　種蒔き社
振替口座東京五九三八七

大賣捌　東京堂　上田屋　北隆館　至誠堂　東海堂

代表的

無產者藝術

前田河廣一郎著
三等船客
定價二圓二十錢
送料十五錢

前田河廣一郎著
赤い馬車
定價二圓二十錢
送料十七錢

金子洋文著
地獄
定價二圓三十錢
送料十二錢

二十九人集
藝術戰線
定價二圓五十錢
送料十二錢

東京市神田區
表神保町一〇

自然社

振替東京
三五五一〇番

茂森唯士譯
（四六版三百二頁　赤ポプリン美裝）

最新刊

レーニン論文集

定價一圓八十錢

郵税十八錢

巨大堅剛なる力をもつてレーニンは人類の歴史を衝き動かした。彼は現世界の凡ゆる政治・經濟・社會・思想一切の上に潑溂として生きて躍つてゐる。彼を無視して現代は批評しがたく未來の豫望も許されない。『剛鐵の如き意志と眞摯火の如き筆と舌』とを以て記述された彼の論文集は革命ロシヤの眞相を究むる上に必須の重要資料たるのみならず、無産階級の聖書として、永久に人間の歴史の上に輝く最高記録である敢て日本の若き新人に薦む。

内容

▲ロシヤ革命の五箇年
▲新經濟政策の意義
▲農民階級と勞働階級の關係
▲都會と農村の文化的交渉
▲ゼノア會議と露國の立場
▲社會主義革命の根本任務
▲ブレスト・リトウスク講和の意義
▲革命の敵たる政治的潮流と經濟的勢力
▲五月一日大勞働祭
▲勞働階級の創造的問題
▲第三インターナショナルの歴史的位置
▲左翼共産主義

東京市本郷區弓町　日本評論社發行　振替東京九六七八

バルト博士著
波多野鼎譯

社會學體系論

本書はバルト博士の世界的名著『社會學としての歴史哲學』中の一篇の譯書である。バルト博士が『社會學は人類の歴史的發展に於ける法則を究明するをその任務とする』との見解に立つて、社會學者の諸說を解說し、批判せる本書は、社會學說の歴史と眞髓とを明確に語り、社會學の研究に入らんとするものにとつては、最も剴切なる著述である

菊版總クロース上製
定價三圓八十錢
送料二十錢

カウツキー著
三輪壽壯譯

社會民主黨綱領

本書はマルクス派社會主義の理論的權威たるカウツキーが、その起草せるエルフルト綱領に基いて、これを敷衍し、理論づけ且說明するために書かれたる通俗的註釋書であるそれは、社會主義の教案として、社會主義に親しまうとする人の爲に、また社會主義を宣傳する人の爲に指針となることを目的として平易に書き下したる貴重なる文献である

四六版總クロース上製
定價二圓八十錢
送料二十錢

東京神田今川小路
大阪市三休橋南詰
大鐙閣
振替 東京三三六一八
大阪三三七一五五

種蒔く人 第三年第五巻第二號 (大正十年十二月一日第三種郵便物認可) 大正十二年七月廿八日印刷納本 大正十二年八月一日發行
本號定價三十錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

的として平易に書き下したる貴重なる文献である

種蒔く人　第三年第五巻第二號（大正十年十二月一日第三種郵便物認可）大正十二年七月廿八日印刷納本　大正十二年八月一日發行

【本號定價三十錢】

大正十二年十二月一日（第三種郵便物認可）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA